

平成25年度  
「道徳教育」自主研究発表会

# 研究紀要

【研究主題】

自分、仲間、ふるさとを愛す、  
豊かな心を身に付けた生徒の育成

～確かな学力とよりよい人間関係を育む『YOU I トーク』の実践を通して～



平成25年10月31日(木)  
阿蘇市立一の宮中学校

# 目次

はじめに

## I 研究の概要

1 研究主題	1
2 主題設定の理由	1
3 主題のとらえ方	2
4 目指す生徒像および道德教育における重点内容項目	3
5 研究仮説及び研究内容	3
6 研究構想図	4
7 研究組織	4

## II 研究の実際

<b>研究内容①</b> 支持的風土で語り、学び合う授業づくり	5
1 『YOU I トーク』の系統化	5
(1) 『YOU I トーク』ストラクチャー（『YOU I トーク』の構造化）	5
(2) 『YOU I トーク』の学習形態	7
(3) 『YOU I トーク』の系統化	8
2 「学力づくり」と「人間関係づくり」を同時に行う授業づくり	8
(1) 英語科での実践	
【第2学年 Unit4 Homestay in the United States（東京書籍）】	9
(2) 「道德の時間」での実践	
【第1学年 3-（1）生命尊重『命を助きたい』（「明日をひらく」東京書籍）】	10
<b>研究内容②</b> 望ましい人間関係を形成する学級活動の充実	12
1 意図的・計画的な学級活動における「話し合い活動」の充実	12
(1) 学級活動年間指導計画の作成	12
(2) 望ましい集団活動へと向かう話し合い活動（『YOU I トーク』）の視点	13
(3) 『話し合い活動マニュアル』の作成と活用	13
2 PM理論を生かした評価方法の構築	16
3 学級活動の実践	
【第3学年 学級活動1-（ア） 「体育大会でのフォークダンスの実施について、クラスの思いをまとめよう」	16
<b>研究内容③</b> 自治的な生徒会活動の充実	18
1 『生徒会活動自治化プログラム』の構築 ～練り合う活動を必然的に生み出す1か月の活動サイクル～	19
2 生徒会活動の実践	
【生徒会活動の方向性について議論し、議決する生徒総会の取組】	21
<b>研究内容④</b> 『YOU I トーク』で響き合う校内環境づくり	22
1 学級の仲間と響き合う教室環境づくり	22
2 学年の仲間と響き合う学年環境づくり	23
3 学校全体で響き合う校内環境づくり	23

## III 研究のまとめ ～仮説の検証【研究の成果(○)と今後の展望(☆)】～

1 仮説①について <b>研究内容①</b>	24
2 仮説②について <b>研究内容②</b>	25
3 仮説③について <b>研究内容③</b>	25
4 仮説④について <b>研究内容④</b>	26
5 全体仮説について	26

おわりに  
参考文献

## はじめに

8月の中旬、ある女性から一本の電話がありました。それは、次のような内容でした。「校長先生ですか。私は、熊本市に住んでいます。私の母は、阿蘇市一の宮町に住んでおりましたが、今年の6月に亡くなりました。先日、初盆のため、家族や親戚がみんな集まった時のことです。一人の男子中学生が、玄関に現れ、お参りをさせて下さいと言ってきました。そして、小さい時から亡くなった母に世話になったことやいつも声をかけてもらったことを話し、感謝の言葉を添えて、しっかりと手を合わせ、お参りをして帰って行きました。その中学生の姿に嬉しくて嬉しくて電話をしました。」という内容でした。その女性は、時々涙声になりながらもその生徒への感謝の言葉を繰り返していました。本校生徒の心優しい話に、私も嬉しくて嬉しくてたまりませんでした。

本校は、熊本県教育委員会の指定を受け、平成23年度から2カ年間、「心の教育研究推進校」として研究を重ね、昨年11月に研究発表会を実施し、研究の成果と課題を発表しました。たくさんの参加者の皆様から、温かい御意見や御指導をいただき、更なる研究継続への御声援をいただいたことに感謝申し上げます。

そして、本年度。その御声援に後押しされ、「自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を身に付けた生徒の育成」という、これまでと同じテーマで研究の継続深化を目指し、取り組んでまいりました。4つの部会では、昨年度の課題を明らかにし、課題解決への仮説を立て、キーワードでねらいを焦点化し、実践的な研究を繰り返しながら検証を進めてまいりました。その中で、全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動としての『YOU I トーク』は、生徒たちの確かな学力と豊かな心の育成に直結する大事な手法として確信を得ることもできました。

研究としては、まだまだわずかな成果ではありますが、ここに研究の成果をまとめました。皆様の温かい御教示や御助言を賜り、阿蘇市を担う一中生が、優しい心と行動で地域を包むことができるよう、更に研究を継続してまいりたいと考えております。最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、多くの御支援をいただきました阿蘇市教育委員会の先生方には、衷心より感謝申し上げますとともに、御多用中にもかかわりませず、御参会いただきました皆様方に厚く御礼を申し上げます。

平成25年10月31日

阿蘇市立一の宮中学校長 岩切 昭宏

## I 研究の概要

### 1 研究主題

# 自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を身に付けた生徒の育成 ～ 確かな学力とよりよい人間関係を育む『YOU I トーク』の実践を通して ～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

学習指導要領でも示されているように、21世紀は、「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる『知識基盤社会』の時代」である。このような状況の中、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要視されている。中でも学校の教育活動全体を通して行う道徳教育に関してはその重要性が強調され、学習指導要領においても道徳教育の全体の目標が総則の中で掲げられている。

現代の社会は、科学技術の進歩・発展が人間の生活に多大な恩恵をもたらしている一方で、それを活用する人間の側の問題からさまざまな影響が出てきていることも少なくない。道徳性の発達は、社会の影響を大きく受ける。このことが生徒の自然な道徳性の発達を阻害している点も看過できない。

これらのことから、変動の激しい社会において、教育活動全体を通して行う道徳教育を充実させ、生徒一人一人の豊かな心を育成していくことが我が国における喫緊の課題として求められていることがわかる。

### (2) 本校の教育目標から

本校では、「人間尊重の精神を基底におき、豊かな心と確かな学力を身に付け、ふるさとを愛する自主的精神に充ちた逞しい一宮中学校生徒を育成する」の教育目標のもと、「一中生の姿を通して一中ブランドを創造する」ことを重点目標とし、生徒一人一人に目を向け、大切にしている教育実践を追求している。特に「豊かな心」の育成に関しては、昨年度までの道徳教育研究推進校としての研究を継続させ、全ての教育活動を通して行う道徳教育『一中プラン』の研究内容の深化を目指している。また、学校行事や生徒会活動等、特別活動を充実させ、子どもの居場所づくりを推進し、一人一役等によって自己有用感を育み、自分と同じように周りを大切にできる生徒の育成を目指している。

このことから、「自己実現を楽しむ心」「自他を大切にする心」「ふるさとを愛する心」の3つの心に重点化した心の教育を、道徳教育を中心とした教育活動全体の場で充実させていきたいと考えている。

### (3) 昨年度の研究成果(○)と課題(●)から

#### 【生徒の様子から】

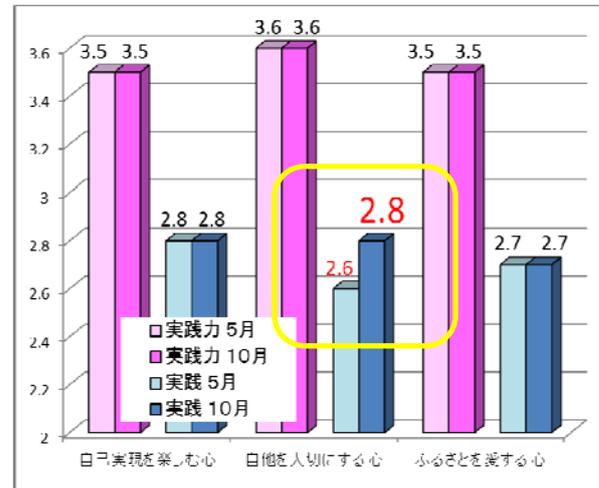
- 研究実践の積み重ねから、生徒の姿に変化が見られ始めた。体育大会では、縦割りグループを活用した練習で組体操やダンスを創りあげた。また、年度初めの生徒総会では、活発に意見を出し合い、全校一致で「朝の奉仕活動」の実施を決め、取組んだ。さらに、部活動でも数々の好成績を収められるようになってきた。
- 学習面においては、わからないことを他者や教科担任に自ら質問して解決していく姿が多くみられるようになった。そのような中で、学級や学年、部活動など集団で力を合わせて何かを成し遂げることに充実感を味わう生徒が増えた。

**【道徳的実践力（心）と道徳的実践（行動）を自己評価するアンケート調査の結果から】**

本研究実践が有効な手段であるならば、「大切だ、必要だと思うか」という道徳的実践力（心）と「行動ができてきているか」という道徳的実践（行動）共に伸びがみられると考えた。

● 期待したほどの変容が見られなかった。向かうべき方向性は明確になり、共通理解は図れたが、まだ十分に焦点化、体系化したものになっていない。このことが共通実践を阻害し、結果、生徒たちに、自身の変化を実感させるまでに至らなかったと考えられる。

○ 「自他を大切にする心」に関してのみ、道徳的実践（行動）に関する自己評価が高まっていた。特に、「授業中に他者とコミュニケーションをとること」「学校行事などで他者と協力すること」「仲間意識を持った行動をとること」「公平公正な態度をとること」の設問において伸びがみられた。他者とのかかわりが増えたことを実感し、自ら他者に積極的に関わることができるようになってきたと評価している生徒が増えてきたことを示している。



以上のことから、生徒は、他者とのかかわりを求めていること、他者とのかかわりの中で充実感や達成感を味わいたいと強く願っていることが分かった。そこで、今後も全ての教育活動でさらに『YOU I トーク』を充実させるとともに、道徳的実践の場である特別活動を活発にすることで、必然的に道徳的価値の自覚を促し、自分、仲間、ふるさとを愛する心を身に付けさせる研究を進めていくことにした。

**3 主題のとらえ方**

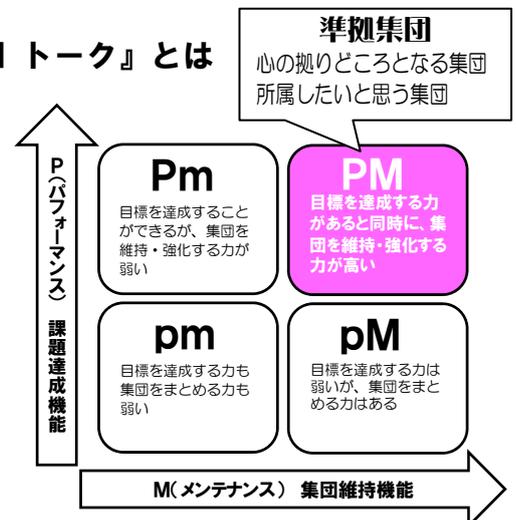
**(1) 教育活動全体で取り組む道徳教育『一中プラン』とは**

全ての教育活動を貫く言語活動として、生徒一人一人が自分の思いや考えを言葉で語り、共有して高め合う『学び合い』（YOU I トーク）を位置付け、道徳の時間、特別活動、各教科の授業における『YOU I トーク』を通して、学習目標の達成と同時に生徒一人一人に豊かな心を育てていきたいと考える。これらの教育指導計画を総称して『一中プラン』とする。

**(2) 確かな学力とよりよい人間関係を育む 『YOU I トーク』とは**

生徒一人一人が自分の思いや考えを言葉で語り、共有して高め合う「学び合い」を、全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として位置付け、『You I トーク』というオリジナルの活動名を付けてキーワード化し、生徒とも共有した実践を重ねていく。

本研究で取り組んでいく『YOU I トーク』は、単なる所属集団の中で個々に学ぶ授業ではなく、意図的な「学び合い」によって、学び合う準拠集団（環境）を作っていく授業に変えていくことを



ねらっている。この視点は、PM理論（課題達成機能と集団維持機能の相関関係の視点）に基づいている。端的に言えば「人間関係が良好な集団で学べば、確かな学力と豊かな人間性が同時に育まれるであろう」という仮説に基づいている。

これらのことから、全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として「学び合い」を位置付け、『YOU I トーク』と銘うって実践を重ねることは、生徒同士が学び合う環境を作り、「確かな学力」と「豊かな人間性」を同時に育むことにつながると考えられる。

YOU	I	トーク
友	愛	
熊	愛	
融	合	

「YOU（あなた）I（わたし）」…「あなた」と「わたし」それぞれが自分を愛する（大切に）する心で  
 「友（ゆう）愛（あい）」…仲間を愛する心で  
 「熊（ゆう）愛（あい）」…ふるさとを愛する心で  
 「融（ゆう）合（あい）」…互いの思いや考えを共有して高め合う

#### 4 目指す生徒像及び道徳教育における重点内容項目

目指す生徒像	夢や希望を持ち、主体的に実現していく生徒	自分の思いや考えをきちんと伝える生徒 相手の思いや考えをきちんと聞く生徒	地域のよさやすばらしさを知り誇れる生徒
育てたい心	自己実現を楽しむ心	自他を大切にできる心	ふるさとを愛する心
重点内容項目	1-(2)目標の実現 1-(5)個性の伸長	2-(5)個性の尊重 4-(3)役割の自覚	3-(2)自然の愛護 4-(8)郷土愛

#### 5 研究仮説及び研究内容

全体仮説		
全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として『YOU I トーク』を位置付け、『一中プラン』に基づいた実践を重ねれば、支持的風土の中で必然的に生徒同士が学び合う集団となり、「確かな学力」と「よりよい人間関係」を共に育むことができるであろう。		
仮説①	仮説②	仮説③
各教科の授業や道徳の時間の中で、効果的な『学び合い』『語り合い』の場を設定し、実践を重ねれば、学習目標の達成と同時に支持的風土が形成され、生徒に「確かな学力」と「よりよい人間関係」を育むことができるであろう。	学級活動において、意図的・計画的な話し合い活動を充実させれば、支持的風土のある望ましい人間関係を形成すると同時に、生徒に自主的・実践的な態度や「よりよい人間関係」を育むことができるであろう。	自治的な生徒会活動を充実させれば、集団の一員として互いに練り合い、自己の役割や責任を果たす中で、支持的風土のある望ましい人間関係を形成すると同時に、生徒に自主的・実践的な態度や「よりよい人間関係」を育むことができるであろう。
研究内容①	研究内容②	研究内容③
<b>各教科・道徳の授業</b>	<b>学級活動</b>	<b>生徒会活動</b>
<b>語り、学び合う</b>	<b>話し合う</b>	<b>練り合う</b>
<b>支持的風土で語り、学び合う授業づくり</b> ○ 効果的な『YOU I トーク』の場の設定と内容、方法の工夫 『YOU I トーク』の系統化 ○ 自然発生グループによる『YOU I トーク』の実践 ○ 学力との相関関係の評価分析 ○ 生き方について語り合う「道徳の時間」の充実 「道徳の時間」授業デザイン図の活用	<b>望ましい人間関係を形成する学級活動の充実</b> ○ 学級活動年間指導計画の再構成 ○ 意図的・計画的な学級活動における「話し合い活動」の充実 ○ 『話し合い活動マニュアル』の作成と活用 ○ PM理論を生かした評価方法の構築	<b>自治的な生徒会活動の充実</b> ○ 『あそはなうたプロジェクト』の充実 ○ 『生徒会活動自治化プログラム』の構築 ※自治化するためのノウハウの検討
仮説④		
生徒の生活の基盤である校内の環境を、日常的に道徳的価値に触れ、互いの心が響き合うものにすれば、生徒の「よりよい人間関係」を育むことができるであろう。		
研究内容④	<b>「YOU I トーク」で響き合う校内環境づくり</b> ○ 生徒の心を響かせる掲示物 生徒同士の心の響き合いが見える掲示物の工夫 ・ 学級の仲間と響き合う教室環境 ・ 学年の仲間と響き合う学年環境 ・ 学校全体で響き合う校内環境	
<b>響き合う</b>		

## 6 研究構想図

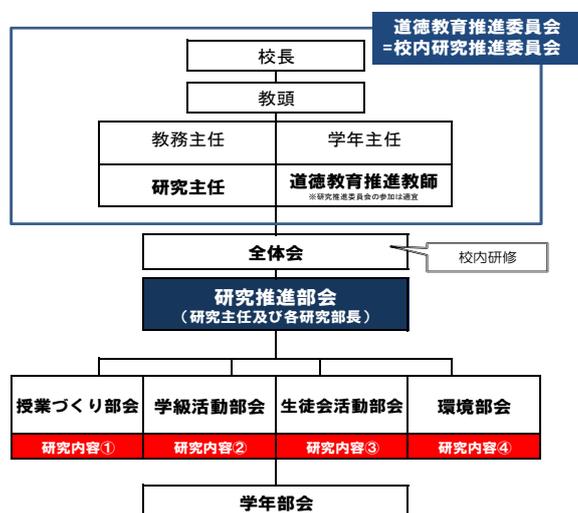
昨年度は、「道徳の時間」を要と位置付け、それに「特別活動の充実」「各教科の授業づくり」「環境整備」を加えた4本の柱を立て、『YOU I トーク』によって共通実践化するイメージで研究構想をとらえていた。

本年度は、昨年度の研究を引き継ぎつつ、『YOU I トーク』の実践に焦点化した研究を進めていく。それに併せて研究の構想を右図のようにとらえた。各教科の授業や道徳の時間の授業づくりに関しては「継続」という方向で「語り学び合う授業」を合言葉に研究内容の深化と定着を目指して進めていく。加えて、生徒が「行動」するなかで「心」を十分に動かすことが可能な場である「特別活動」をより「強化」する視点から、「話し合う学級活動」と「練り合う生徒会活動」に分けて研究を進めていく。「学級活動」と「生徒会活動」に関して、本校オリジナルのノウハウを確立し、実践を重ね、さらには「伝統」へとつなげていきたいと考えている。加えて、生徒同士が互いに「響き合う校内環境」を意識し、道徳的観点からの校内環境整備、教室掲示の工夫を行っていく。



## 7 研究組織

上述してきた研究仮説及び研究内容、研究の構想を踏まえ、研究内容にあわせて「授業づくり部会」「学級活動部会」「生徒会活動部会」「環境部会」の4部会を設けて研究を進めていく。さらに本年度も、研究の推進体制をより機能的かつ強化するために研究主任及び各研究部会長で構成する研究推進部会を設けた。研究の推進状況を随時確認しながら、各部会、学年部会につなげ、限られた時間の中での共通理解、共通実践を行った。



## II 研究の実際

### 研究内容① 支持的風土で語り、学び合う授業づくり

昨年度は、授業づくり研究として「生き方について語り合う道徳の授業づくり」と「支持的風土で学び合う各教科の授業づくり」の2つの内容に分けて研究実践を行った。その成果(○)と課題(●)は、以下のようにまとめられる。

#### 【道徳の時間の授業に関して】

- 今の自分、これまでの自分を他者とのかかわりの中で見つめ直し、これからの自分に希望を持つことができる生徒が増えてきた。
- 道徳の授業デザイン図を作成したことで、語り合う道徳の授業づくりの視点が明確になった。
- 道徳の時間を充実させるためには、普段の授業や日常生活の中で本音を語り合うことができるような支持的風土を育むことが不可欠である。

#### 【各教科の授業に関して】

- 多くの生徒が、各教科の授業における『YOU I トーク』を肯定的にとらえている。「みんなの意見が聞けて楽しい」「わからないことを一緒に考えられる」「クラスの仲間と仲良くなれる気がする」など、学び合うことのよさを実感している生徒が多い。朝自習や放課後など、日常の場面でも互いに教え合う姿などが見られるようになった。
- 今後も、授業改善、学級経営改善の有効な手段として『YOU I トーク』を意図的、効果的に取り入れていく必要がある。
- 効果的な『YOU I トーク』の場を設定するためには、3年間を見通し、系統化する必要がある。

道徳教育は、全ての教育活動で行うものである。中でも、学校生活の大半を占める授業の果たす役割は非常に大きい。昨年度、各教科の授業における『YOU I トーク』の有効性はある程度証明することができた。そのような中、道徳の時間における「語り合い」が学級の支持的風土に大きく左右されることがわかった。つまり、各教科の授業で「学び合える」学級が、道徳の時間にも「語り合える」学級である。反対に、道徳の時間に「語り合えない」学級は、各教科の授業でも「学び合えない」傾向にあるということが明らかになった。このことから、各教科の授業と道徳の時間の授業を切り離さず、全ての授業で共通した視点を持って取り組む必要があることがわかった。

そこで本年度は全ての授業における **語り、学び合う** 場を『YOU I トーク』の場としてとらえ、授業における支持的風土の形成という視点をより明確にして「学力づくり」と「人間関係づくり」を同時に行う授業づくりの研究実践を深めることにした。また、より効果的な『YOU I トーク』の場を設定していくために、3年間を見通した『YOU I トーク』の系統化に向けた取組を進めていくことにした。

以上をふまえて、本年度は、以下の研究実践に取り組んでいる。

- 1 『YOU I トーク』の系統化
- 2 「学力づくり」と「人間関係づくり」を同時に行う授業づくり

## 1 『YOU I トーク』の系統化

### (1) 『YOU I トーク』ストラクチャー（『YOU I トーク』の構造化）

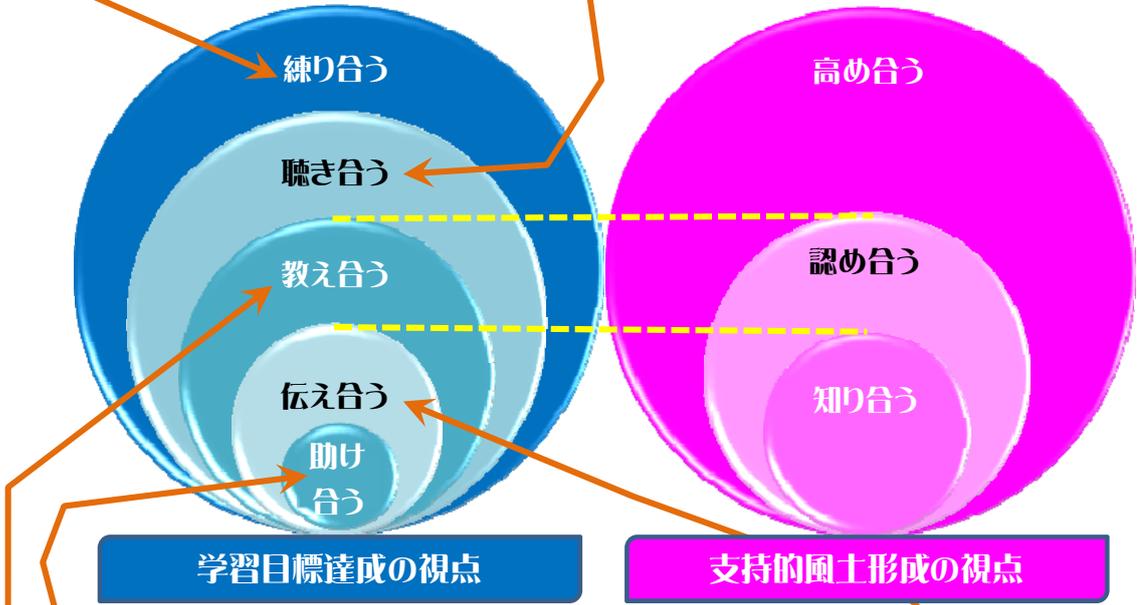
『YOU I トーク』が、学習目標を達成するのに有効な手段となるようにするためには、場の設定が、意図的・計画的なものでなければならない。また、意図的・計画的に『YOU I トーク』を位置付けていくためには、各教科、領域での授業者一人一人が、その目的達成のためにどのような質の『YOU I トーク』を求めるのか明確なイメージ

を持っていなければならない。このようなことから、『YOU I トーク』の系統化を目指し、まずは、『YOU I トーク』の質的な部分を整理、構造化し、「『YOU I トーク』ストラクチャー」を作成した（下図）。

## 語り、学び合う『YOU I トーク』ストラクチャー

**目的を持って、意見を出し合い、相互作用し合う** 練り合いを次のような場面で行う。  
 ○よりよい意見を見つけたり、意見を深めたりする場面 ○意見をすりあわせたり、妥協点を見つけたりする(折り合う)場面 ○たくさんの意見を出し合い、視野を広げる場面  
 練り合いは双方向のかかわり合いである。知識の多い子は多い子なりの意見を出し、勉強が苦手な子は苦手な子なりの意見を出し合う。それぞれの気づきから新たな思考が生まれるなど高め合うことができる。さらに、これらの練り合いが、道徳的価値や生き方について行われる場面を「語り合い」の場面とする。

**相手の意見を傾聴し、相互に吸収し合う**  
 相手の意見を注意深く聴き、自分の意見と比較したり、違いや相似点に気付いたりする。双方向のかかわり合いが基盤となり、「こういう考えもあるのか」と、双方にとって学びがあるかかわり合いとなり、高め合うことができる。



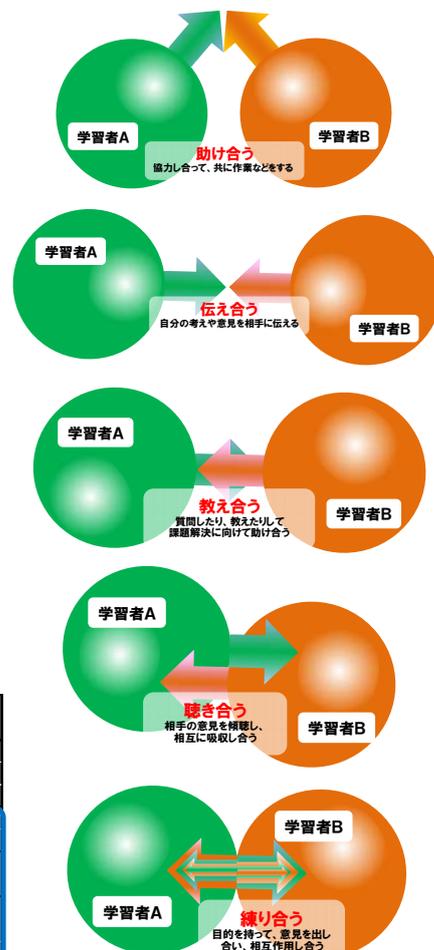
**協力し合って、共に作業などをする**  
 一緒に実験をしたり、何かをつくったり、共に課題を解決したりする形態のかかわり合いである。共に活動する中で、互いを知り合うことができる。

**相互に質問したり、教えたりして課題解決に向かう**  
 課題解決などに向かって助け合うことで、互いのよさや個性を認め合うことができる。

**自分の考えや意見を相手に伝える**  
 自分の意見を伝えることはコミュニケーションの第一段階である。自分の考えや意見等を他者に伝えることで、互いを知り合うことができる。

「語り、学び合う『YOU I トーク』」を「学習目標達成の視点」と「支持的風土形成の視点」から上図のようにとらえた。生徒相互が「助け」「伝え」「教え」「聴き」「練り」「語り」合う場を、学習目標達成に向かう『YOU I トーク』の場とし、包含的な関係として構造化して、とらえることにした。授業者は、学習目標の達成に向けて、意図的にこれらの『YOU I トーク』を仕組みでいく。また、学習目標達成に向けた『YOU I トーク』を通して、互いを「知り」「認め」「高め」合う作用を「支持的風土形成の視点」とした。支持的風土の中で、学習目標の達成に向けて練り合い、語り合いながら、互いを高め合う。これこそが、「学力づくり」と「人間関係づくり」を授業で同時に行う『YOU I トーク』でねらうところである。

学習目標の達成に向けた学習者同士のかかわり合いの姿は、右のようなイメージ図でとらえている。授業者は、「学習者である生徒同士にどのようにかかわり合いをさせるのか。どのような作用を期待するのか。」右のようなイメージを持ちながら、学習目標の達成に向けて効果的な『YOU I トーク』の場を意図的に設定していく。



## (2) 『YOU I トーク』の学習形態

『YOU I トーク』の方法や形態はさまざまである。しかし、これらの学習形態をただやみくもに取り入れるだけではその目的が十分に果たせないのは周知のことである。授業者は、効果や留意点を踏まえて、学習目標達成の手段として最も効果的な方法や形態を選択しなければならない。

形態	効果	留意点
一斉	○ 情報が正確に伝わりやすい。 ○ 指導がしやすい。	● 一方通行になりやすい。 ● 一部の思考に左右される。 ● 個々の思考が反映されにくい。
ペア	○ 編成が簡単である。 ○ 取り入れやすい。	● 思考に広がりが出ない。 ● 人間関係の影響を受けやすい。
3人	○ グループ編成がしやすい。 ○ 議論がしやすい。	● 構成員によっては思考の広がりが出にくい場合がある。
4人～	○ より多くの思考に触れることができる。	● 活動に入れない子どもが出てくる。 ● グループ内で分かれて活動してしまう。
バス学習等		● ある程度の時間が必要である。
自然発生グループ	○ 生徒同士のコミュニケーションが必然 ○ より多くの思考に触れることが可能 ○ よりよい人間関係を築くことが可能	● 初めは人間関係の影響を受けやすい。 ● 教師の支援(学習内容、発問、指示、声かけなど)の質が問われる。

そこで、先述した『YOU I トーク』ストラクチャーに加え、生徒の発達段階や学級の実態を踏まえて効果的に『YOU I トーク』の場を設定するために、『YOU I トーク』による学び合いの段階とそれを効果的に実現する主な学習形態を整理した。(右表)

段階	主な学習形態
第3段階	学びの主体となって学習を進めていく 全体 自然発生グループ
第2段階	主体性を持って学習する経験を重ねる 小集団 4～5人程度
第1段階	主体的な学び合いの方法を身に付ける 少人数 ペア・3人程度

『YOU I トーク』の初期の段階(第1段階)は、主体的な学び合いの方法を身に付ける段階であると考えられる。ペアや3人など少人数での『YOU I トーク』によってその方法を身に付け、よさを実感する。学習目標達成に向けて、互いに助け合ったり、互いの考えを伝え合ったりする、いわばコミュニケーションの第一段階である。これらの活動を通して互いを知り合うことができる。互いを知ることは支持的風土形成の第一歩である。

中期の段階(第2段階)は、生徒に主体性を持たせ、集団での共同解決等の作業を通して自らの考えを整理したり、深めたりする経験を重ねる段階である。この段階では、一方的な情報発信にとどまらず、小集団での『YOU I トーク』等によって、学習目標達成に向けて互いの思いや意見を交流し合ったり、教え合ったりする場を設定することができる。これらの活動を通して互いのよさや個性を認め合いながら、支持的風土が形成されていく。

最終的な段階(第3段階)は、生徒が学びの主体となって学習を進めていく段階である。本校で昨年度から研究を重ねている、自然発生グループでの『YOU I トーク』

はこの段階での有効な学習形態であると考えている。自然発生グループとは、生徒たちが課題解決に向けて自由に、流動的に集団を形成していくグループのことである。目的を持って他者の言葉を傾聴し（聴き合い）、意見を出し合う、すなわち練り合う中から新たな思考が生まれることがある。そして最終的には、互いに学びがあるかわり合いの中で、聴き合い、練り合い、高め合う、生徒が学びの主体となって学習を進められる授業づくりを目指している。また、自然発生グループは人間関係や学級経営の影響を直接受けやすい。だからこそ、この自然発生グループでの『YOU I トーク』が成立する授業づくりを追求することが、「学力づくり」と「人間関係づくり」を同時に行うことにつながるものだと考えている。

### (3) 『YOU I トーク』の系統化

先述したように、授業づくりにおいて、『YOU I トーク』の場をどのように設定するかは、教科の特性や生徒の実態に応じて、授業者が学習目標達成の手段として最も効果的な方法や形態を選択するのが原則である。

そこで、より『YOU I トーク』の場での生徒の姿をイメージしやすくするために、『YOU I トーク』ストラクチャーを横軸に、生徒の発達段階を踏まえた学習形態の視点を縦軸にした、語り、学び合う『YOU I トーク』の系統表（下表）を作成した。

語り、学び合う『YOU I トーク』系統表		学習目標達成の視点		助け合う	伝え合う	教え合う	聴き合う	練り合う
				協力し合って、共に作業などをする	自分の考えや意見を相手に伝える	相互に質問したり、教えたりして課題解決に向かう	相手の意見を傾聴し、相互に吸収し合う	目的を持って、意見を出し合い、相互作用し合う
第3学年 ↑ 第1学年	第3段階	学びの主体となって学習を進めていく	主な学習形態	全体・自然発生グループ				
			生徒の姿	自分たちで役割を決め、共に協力し合って活動をする	自分の考えや意見を、他者の考えや意見を踏まえ、根拠を明確にして伝える	教え合う場や仲間を適切に選択しながら課題解決を行う	相手の考えや思いを自分に結び付けて積極的に聴き、返しを行う	考えの組織化を考え、それぞれの考えを磨き、高めつつ、新たな考えを生み出す
	第2段階	主体性を持って学習する経験を重ねる	主な学習形態	小集団【4・5人程度】				
			生徒の姿	自分の役割に責任を持って活動する	自分の考えや意見を、根拠を明確にして伝える	互いに教え合うことのできることを知り、助け合って課題解決を行う	相手・目的・場を考えた、意識的、効果的に聴く	それぞれの思考を比較整理し、よりよい考えを導き出そうとする
	第1段階	主体的な学び合いの方法を身に付ける	主な学習形態	少人数【ペア・3人程度】				
			生徒の姿	協力して活動をする	自分の考えや意見を持って伝える	わからないことをわからないと伝え合う	聴くことの大切さを知り、正確に最後まで聴く	考えを比べ合い、よりよい考えを模索する
支持的風土形成の視点				知り合う	認め合う	高め合う		

これによって、どのような視点で『YOU I トーク』の場を設定し、どのような生徒の姿が見られることを期待するのか、明確なビジョンを持って、語り、学び合う授業づくりを行うことができるようになった。

## 2 「学力づくり」と「人間関係づくり」を同時に行う授業づくり

これまで述べてきたように本研究における授業づくりの根幹にはPM理論がある。「人間関係が良好な集団で学べば、確かな学力と豊かな人間性が同時に育まれる」という視点である。課題達成機能（P）と集団維持機能（M）を授業づくりの視点からとらえると、課題達成機能は「学習目標の達成の機能」、集団維持機能は「支持的風土の形成の機能」である。これら両機能を備えた集団作りを、『YOU I



トーク』を介してすべての授業で行っていく。これが、「学力づくり」と「人間関係づくり」という2本柱を同時に行っていく授業づくりである。

以上の視点をより明確にした授業づくりを行うため、学習指導案の形式を工夫した。生徒の実態、指導観、本時の目標、本時の展開部分に「学習目標達成の視点」と「支持的風土形成の視点」を記し、指導者が2本の柱をしっかりと意識した授業づくりができるようにした。

(1) 英語科での実践 【第2学年 Unit4 Homestay in the United States (東京書籍)】

本時の目標	学習目標達成の視点	支持的風土形成の視点
	助動詞 have to, don't have to を用いて「しなければならないこと」「しなくてもいいこと」を英文にする。	教え合い、協力し合いながら課題解決に向けて取組み、互いを認め合いながら学び合う。
『YOU I トーク』	伝え合う 教え合う	
	学習活動【学習形態】○主な発問等	生徒の反応、様子『YOU I トーク』等
導入	1 「しなければならないこと」「しなくてもいいこと」を英文にするという本時のめあてを確認する。【一斉】	「夏休み中にホームステイをした学級の友達が、英国の友達に送る手紙の文面を共に考えるという」学習課題に意欲を見せた。
	日本の学校生活で「しなければならないこと」「しなくてもいいこと」を英文で表現し、英国の友達に送る手紙を完成させよう。	
展開	2 have to, don't have toの用法を知り、パターンプラクティスで構文になれる。【YOU I トーク(少人数)】	ペアでコミュニケーションをとりながら、口頭練習を行い、アドバイスをし合いながら取組むことができていた。
	3 練習問題に取り組む。 【個人】→【一斉】	<p><b>教え合う</b></p> <p>「この部分、何って読むんだっけ。教えて。」 「『ハブ トゥー』じゃなくて、『ハフトゥー』だよ。」 「ありがとう。」「もう一回読んでみよう。」</p>
	4 手紙の内容を英文で表現する。 【個人】→【YOU I トーク(小集団)】	個人での自力解決段階では、まだ十分に have to, don't have to の用法を理解できていない生徒がいた。小集団での『YOU I トーク』によって、わからないことを伝えたり、教え合ったりして理解を深める様子が見られた。
	0 わからない人は「わからない」、自分なりの考えがもてた人は「私はこう考える」としっかり伝え合ひましよう。全員が考えをもてるのが大切ですよ。	<p><b>伝え合う・教え合う</b></p> <p>「②番まではできたんだけど…。③④番がわからない。みんなはできた？」 「③番は多分・・・だと思うよ。だって～しなければならないだから、ここを have to clean にすればいいんじゃない。」 「④番って「～しなければならないなかった」だからひよっとしたら have を had にするんじゃないの?」「そうかもしれないね。」</p>
	5 それぞれのグループで作成した英文を発表する。	
	6 発表内容をもとに have to, don't have to の用法を再度おさえ、確認テストをする。【一斉】	<p><b>伝え合う</b></p> <p>「私たちの班は、～と考えました。特に④について、have を had にすることを思いつきました。」</p>
まとめ	7 本時のまとめをする。 教科書の音読をし、次時の学習内容を確認する。 【一斉】	

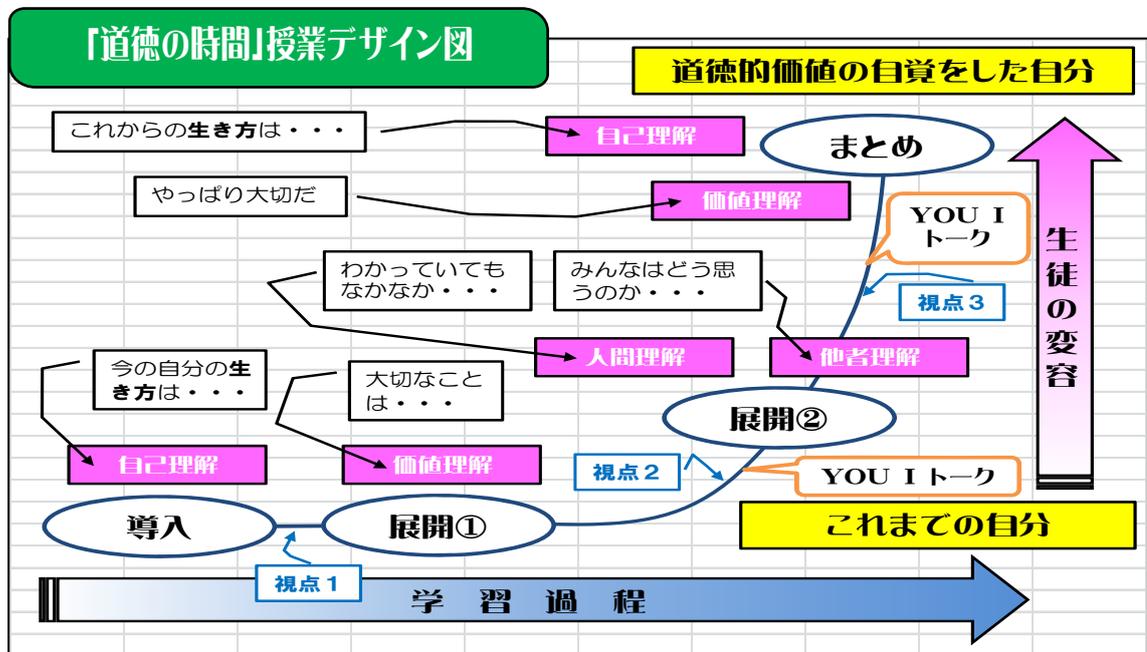
**【生徒の変容〇と今後の展望☆】**

○ 口頭パンプラクティスでは、小人数の『YOU I トーク』によって、互いに教え合う様子が見られた。わからない発音はペアの仲間に尋ねて正しく練習しようとする姿が見られた。比較的英語が得意な生徒は「こうやったらうまく言えるよ」というアドバイスを行っていた。また、手紙を作成する段階では小集団での『YOU I トーク』によって、自分の考えや意見をもとにグループで手紙を仕上げている作業を行った。その際、自分の考えを仲間の考えと照らし合わせながら、わからないことを伝えたり、教え合ったりして理解を深める様子が見られた。 **伝え合う・教え合う**

☆ 自分の考えや意見を、根拠を明確にして伝える「伝え合う」段階の前には、しっかり自分の考えを持てるよう十分な時間を確保していく必要がある。また、「教え合う」段階では互いに教え合う良さを実感し、助け合って課題解決を行う大切さを実感させていく必要がある。そのために、教え合った内容を個人から全体へと広げていく「聴き合う」視点も適宜授業の中に組み込んでいきたい。さらに、単元のまとめには「聴き合う」「練り合う」場面を設定し、思考の広がりや深まりを得られることを実感させていく。今後の展望としては、『You I トーク』の目的と意義、それがもたらす効果について、教師だけでなくすべての生徒が実感できるよう取組を積み上げていきたい。

**(2) 「道徳の時間」での実践**

道徳の時間における授業づくりに関しては、昨年度作成した『生き方について語り合う授業デザイン図』を活用している。これは、学習過程と生徒の変容を軸とし、「価値理解」「人間理解」「他者理解」「自己理解」の4つの理解場面を学習過程に位置付けたもので、『YOU I トーク』を介して生き方について語り合う授業づくりの基本モデルとして活用しているものである。 ※ 下図「視点」は昨年度研究紀要参照



**【第1学年 3-(1) 生命尊重「命を助きたい」(出典：中学道徳「明日をひらく」東京書籍)】**

	学習目標達成の視点	支持的風土形成の視点
本時の目標	国際緊急援助隊の一員として、被災地で自身の危険を顧みずに救助活動した主人公の心情を考えることで、自分自身のこれまでの行動や生き方を見つめ、生命を尊重した行動をしようとする意欲を持つ。	グループでの『YOU I トーク』や全体での発表の場において、自分の考えや思いを伝えることができるとともに、他者の意見をしっかりと聞き、共感することができる。

『YOU I トーク』		伝え合う 聴き合う	
学習活動【学習形態】・主な発問等		生徒の反応等	
導入	1 資料の内容をつかむ。【一斉】 ・スマトラ島沖地震について知る。 ・範読を聞き、あらすじをつかむ。【価値理解】	自分たちが経験した九州北部豪雨での被災と重ねてあらすじをとらえる生徒が多かった。	
	<b>派遣要請があったとき、阿部さんはどんな思いだったのだろうか。</b>		
展開①	2 阿部さんの葛藤について考える。【人間理解】 【一斉】 ○ 派遣要請があったときの思いは？ 	「わかっている」と「その通りに行動できる」ことは違うことに気付く。 <b>伝え合う</b> 「行かなければならない。そのためにこの仕事に就いた。」と思っている。 「不安で落ち着かない気持ちもあったのではないか。」 「子どもとの別れの時が一番不安がこみ上げてきたと思う。」	
	<b>もし、あなたが救助隊員だったらどうしますか？それはなぜですか？</b>		
	3 自分だったらどのように行動するか考える。【自己理解】 【個人→YOU I トーク(少人数)】 【他者理解】 ○ 出発前の不安、被災地での過酷な救助活動があったにもかかわらず、阿部さんは救助活動をやり切りました。	 <b>伝え合う・聴き合う</b> 「何よりも命を救いたい。そのために救助隊になったのだから。」 「でも、もしかしたら自分が死んでしまうかもしれないよ」 「それを承知で選んだ仕事でしょ。」 「家族と会えないかもしれないと思うと、悩むな・・・。」	
4 阿部さんの生き方について語り合う。	<b>阿部さんを突き動かした力は何？阿部さんの生き方について語り合おう。</b>		
展開②	【他者理解】・【価値理解】 【YOU I トーク(小集団)】 ○ 阿部さんが救助活動することができたのはなぜだろう。  ○ グループで語り合ったことを発表しよう。	<b>伝え合う・聴き合う</b> 「命の尊さを考えると、阿部さんはいてもたってもいられない。自分を必要としている命のために動ける阿部さんはすごいという意見の人がいた。」 「自分ならどう行動するか、その時になってみないとわからないが、この阿部さんの思いや行動を思い出してしっかり考えることが大事だと思うという話をした。」	
まとめ	5 本時のまとめをする。【一斉】 ○ 教師の説話		

### 【生徒の変容〇と今後の展望☆】

○ 1年生ということもあり、本時では発表の仕方、聴き方を意識させた。伝え手と聴き手の態度である「伝え方」と「聴き方」は学級の支持的風土の土台となる。本時の『YOU I トーク』では、日頃よりも多くの生徒が、自分の意見を発表することができていたように思う。発表者に身体を向け、うなずきながら聴く生徒も多いた。そのため、発表者にとっても発表しやすい雰囲気が出た。様々な意見や考えが引き出されているように感じた。【伝え合う・聴き合う】

☆ 伝え方・聴き方を徹底することで、互いの気持ちを伝えやすい学級を目指した。1年生の段階からこれらの態度を養うことで、今後はさらによりよい学級集団を構築することができると思う。3年間を見通して、今すべき『You I トーク』の充実を図っていきたい。

## 研究内容② 望ましい人間関係を形成する学級活動の充実

昨年度は、「望ましい人間関係を形成する学級活動」をキーワードに、「話し合い活動」と「係活動」の充実を図る研究実践を行った。その成果（○）と課題（●）は、以下のようにまとめられる。

- 学級活動が充実すれば、学級の雰囲気よくなり、一人一人にとって居心地のよい場所になると実感できる生徒が増えた。
- 自分たちのことを自分たちのために自分たちで話合うことのよさを実感できる生徒が増えた。
- 学級活動における話し合い活動の大切さは理解しているが、実際の行動にはつなげられていない。
- 学校や学級での役割や責任を果たすことの重要性を理解しており、係や委員会の仕事に意欲を持って取り組む生徒が増えてきた。しかし、個人差もあり、十分だとはいえない。
- 他者に自分の思いを伝えたり、他者や学級、学校のために行動したりすることに関する項目において、道徳的实践力と道徳的实践の開きがまだ大きい。

自分たちが所属する学級集団を準拠集団化させるために、学級内のさまざまな事柄を話し合いによって集団決定し、それを尊重することが大切であるということを生徒たちは理解することができた（道徳的实践力）。反面、集団決定したことや集団での役割を果たすことなど、集団にどのようにかかわっていくかという自主的、実践的な態度面（道徳的实践）においてやや個人差がみられることが分かった。原因としては、「1 話し合いの内容と方法の質の問題」、「2 話し合い後の実践や自己評価を含めた評価の問題」の2点が考えられる。

以上の成果と課題をふまえて、学級活動における『YOU I トーク』を **話し合う** ことととらえ、本年度は、以下の研究実践に取り組んでいる。

- 1 意図的・計画的な学級活動における「話し合い活動」の充実
- 2 PM理論を生かした評価方法の構築

### 1 意図的・計画的な学級活動における「話し合い活動」の充実

#### （1）学級活動年間指導計画の作成

意図的・計画的な「話し合い活動」を充実させるためには、その活動内容の意図が明確に反映され、計画的に配置された指導計画であるということが不可欠である。そこで、本校では「話し合い活動」と「道徳の内容項目との関連」の項目を明確に位置付けている。これによって、「望ましい人間関係を構築するため」という特別活動と、「自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を育むため」という道徳教育との関連をより意識し、その意図を計画的に配置した学級活動を展開することができると考えた。学級での話し合い活動や係活動等が当たり前のように活発に行われるようになることが、学級生活の向上やよりよい人間関係の形成につながり、豊かな心を育むことができると考えている。

送徳の時間との関連		コミュニケーション育成の手立		第1学年学級活動年間指導計画の一部									
月	時数	題材	活動の内容	学級活動		話し合い活動		目指す生徒の姿（主たる）		道徳内容項目との関連		生徒会活動及び学校行事等との関連	
				(1) 学業や学級の生活づくり	(2) 道徳と成長及び健康安全	話し合い活動	話し合い活動	集団や社会の一員としての思考・判断・表現	集団や社会の一員としての生活への参加	道徳内容項目との関連	道徳内容項目との関連	生徒会活動及び学校行事等との関連	生徒会活動及び学校行事等との関連
	10	1年生の自分と2年生の自分	2年生としてどう生活するべきかを考える。	○	イ	○	○	(1)	+	○	1-(2)	+	○
	20	みんなで仲がる学級をの。	学級目標を決める。	イ	○	○	○	(1)	+	○	1-(4)	+	○
	30	みんなで仲がる学級をの。	学級の組織づくりをする。 (学級の係・専門委員会)	イ	○	○	○	(1)	+	○	4-(4)	+	○
	40	体育大会を成功させよう①。	体育大会スローガン決め。	ウ	○	○	○	(1)	+	○	1-(8)	+	○

また、3年間の年間指導計画を明確にし、単発的な話し合い活動ではなく、系統的な話し合い活動を行うようにした。例えば、6月の第1週目には、全学年で生徒総会に向けた話し合い活動が各学級で行われる。その際は、上表のように、各学年の実態や段階に応じた視点を持って話し合う。実際の生徒総会では、それぞれの立場を明確にして発言する姿が見られた。意図的・計画的な話し合い活動を充実させることは、学校全体の望ましい集団活動につながると考えている。

【共通テーマ】 生徒総会に向けて		
6月第1週	第1学年	各委員会や生徒会全体での取組に関する質問や疑問点などについて話し合う。
	第2学年	これまでの各委員会活動や生徒会全体での取組に、自分たちがどのように関わってきたかという視点で振り返り、今年度はどのように取組んでいくかを話し合う。
	第3学年	本校生徒の現状と課題を出し合い、最上級生としてどのような学校づくりをして卒業を迎えるかという視点で話し合い、今年度の具体的な取組を提案する。

## (2) 望ましい集団活動へと向かう話し合い活動(『YOU I トーク』)の視点

本校では、これまで、望ましい集団活動へと向かう話し合い活動を充実させるための視点として、以下の3つの視点での授業づくりを行ってきた。

話し合い活動充実の視点		方法例
<b>視点1</b>	<b>何のために話し合うのか</b> 問題意識を大切に活動にする ※自主的・実践的な態度を生み出す活動	・学級等の実態を材料にする話し合い ・生徒からの問題提起を生かした話し合い 等
<b>視点2</b>	<b>何について話し合い、何を決めるのか</b> 多様な考えを出し合い、合意形成(集団決定)する活動にする ※集団決定の重みを理解し、折り合い、主体的にかかわる活動	・すべて参加者が何かしらの発言をする機会を設ける ・安易な多数決で話し合いを完結させない ・個人としてどうかかわるのか、自己決定までする 等
<b>視点3</b>	<b>どのような方法で話し合うのが効果的なのか</b> リーダーシップとメンバーシップを身に付けられる活動にする ※司会者が育つ、誰もがリーダーになる活動	・全体司会、グループ司会などを輪番制で行う ・グループ討議を取り入れる 等

本年度もこれら3つの視点を踏まえ、「生徒の問題意識、問題提起からスタートする話し合い活動」、「多様な考えを出し合い、集団決定を尊重することを前提とした合意形成を行う話し合い活動」、「集団決定に準じた自己決定も行う話し合い活動」、「決めたことは必ず全員です。できなければ修正して、必ずやる。やってよかったと全員が実感する。」学級活動を積み重ねていく。

## (3) 『話し合い活動マニュアル』の作成と活用

上述した、望ましい集団活動へと向かう話し合い活動の3つの視点に従い、『話し合い活動マニュアル』(以下『マニュアル』と表記)を作成した。『マニュアル』を作成したことによって、何のために話し合うのか(視点1)、何について話し合い、何を決めるのか(視点2)、どのような方法で話し合うのが効果的なのか(視点3)ということを一一つ整理しながら、充実した話し合い活動を進めていくことが可能となった。

### ① 何のために話し合うのか(視点1)

「いつ」「どの場で」「だれと」するのにかよって、右のようにさまざまな話し合い活動が設定されていく。また、本校では話し合い活動の種類を次頁で示すように4つに分けて整理している。話し合う内容が4種類のどれに当てはまるのかをまず明確にすることで、何のために話し合

	どのような場	メンバー
学級	学級会	クラス全員
	企画(計画)委員会	企画(計画)委員
	朝の会・帰りの会 係活動の時間	クラス全員 係員
生徒会	生徒総会	全校生徒
	生徒議会	生徒会執行部 各委員長 クラス代議員
	生徒会推進委員会	生徒会執行部 各委員長
	委員会活動	各委員
その他	部活動	部員
	キャプテン会議	各部キャプテン

うのかという目的を参加者全員で共有することができる。

また、生徒一人一人が**視点1**を持って話し合い活動に参加できるように、『マニュアル』では、議題の設定から、実際の話し合い活動に至るまでの事前準備の大切さを示している。

議題の選定にあたっては、右のような提案カードや議題箱などを活用したり、生徒たちの日常の会話の中から話し合う必要性のあるものを拾い上げたりするなど、日常的に生徒達自身の問題意識の中から議題が提案されるような工夫を行っている。決まった提案は、何のためにその話し合いをするのか、目的をはっきりさせる。目的をはっきりさせることによって、議題が「レクリエーション大会をしよう」から「もっとクラスの絆を深めるためにレクリエーション大会をしよう」と変わる。目的が決まったら、提案理由、話し合いのめあて、討議の柱を決める。討議の柱に関して、「だれがどのような意見を持っているのか」「どのような意見を持っている人が多いのか」「少数意見は?」「反対意見は?」など、学級アンケートなどを実施し、事前に把握することによって話し合いをスムーズに進めることができる。

このように、事前の準備を十分しておくことがスムーズな進行と明確な意図にもとづいた集団決定へとつながると考える。

- ① **決める話し合い**  
※ 学級目標決め、生徒会スローガン決め、係決め、レクリエーション決め など
- ② **解決する話し合い**  
※ 学級で起こった諸問題の解決、学校の課題の解決、係（委員会）活動の改善など
- ③ **創る（生み出す）話し合い**  
※ ルールづくり、ルールの見直し、新しい係づくり など
- ④ **確認する話し合い**  
※ 各係（委員会）などからの連絡、報告 相談 など

**提案カード**

名前( )

提案したいこと

提案理由

---

切り取り線

提案してくれた( )さんへ

提案ありがとうございます。  
あなたの提案は、

話し合いをします。

みんなへ連絡・相談します。

[ ] 当番・係をお願いします。

[ ] さんをお願いします。

[ ] 先生をお願いします。

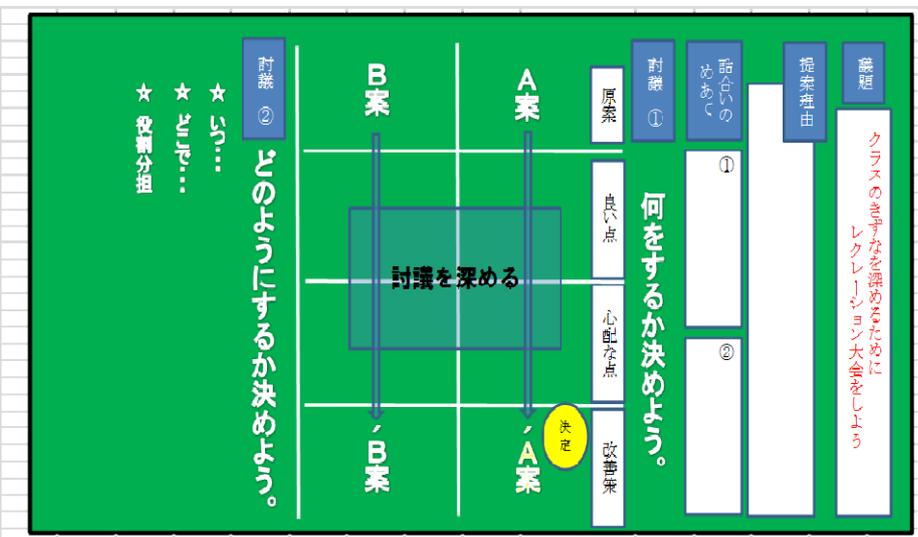
[ ] より

**② 何について話し合い、何を決めるのか（視点2）**

話し合い活動をよりスムーズに運営し、意義のあるものにするためには、全員が納得する結論（折り合い）を出し、話し合いで決まったことは全員で協力する（集団決定の尊重）ことが大事である。下図は、学級会での板書例である。原案から討議を深め、良い点、心配な点を出し合いながら、よりよい改善策を生み出す過程がまとめられている。

話し合いの過程を視覚的にわかりやすく記録に残していくことで、互いの意見等が整理され、折り合いをつけながら結論にたどりつくことができる。

このように板



書の仕方を含め、シートなどを工夫することによって「何について話し合い、何を決めるのか」ということを参加者全員が理解して話し合いを進めることができる。

また、折り合いをつけながら集団決定を行う際に絶対に不可欠な視点は、「安易な多数決をしない」ということである。安易な多数決とは、右に示したような状態のまま執り行われる多数決のことである。

### 安易な多数決になってしまう話し合いの状態

- 話し合う前と話し合った後の提案が同じであり、話し合いが深められていない。
- 『反対意見』についての議論がなされていない。
- 『少数意見』についての議論がなされていない。

前頁の板書例示したように、話し合いが深められ、**A**という原案が、よりよく改善された**A**という案に変わっている状況で多数決をしたとしても安易な『多数決』にはならない。

このように、『マニュアル』では、話し合い活動において、集団決定を尊重し、折り合いをつけながらすべての参加者が何らかの形で発言をしていくことの大切さを示している。

### ③ どのような方法で話し合うのが効果的なのか（視点3）

『マニュアル』では、右のような司会進行シートも示している。全体司会、グループ内司会を可能な限り、輪番制で行うため、誰でもこれをガイドとして活用できるようにしている。この進行シートを活用することで、本番の進行のみならず、事前にさまざまな打ち合わせを行うこともでき、司会者が本番での話し合いに見通しを持って臨むことができる。

しかし、司会者がどれだけ入念に準備をしても、なかなか意見が出ず、話し合いが停滞してしまうような場合もある。そのような場合、どのようにして話し合いを活性化させるか、少人数のグループなどを活用した『YOU I トーク』の進め方についても身に付けられるようにしている。また、少人数グループでの『YOU I トーク』でも、話し合いをリードする司会者を立てている。司会者を可能な限り輪番制にすることで、すべての生徒がリーダーとフォロワーを経験することができ、「どのような方法で話し合うのが効果的なのか」という視点でのリーダーシップとメンバーシップを身に付けることができると考える。

① 開会・司会者自己紹介	起立。気を付け、今から第○回学級会を始めます。礼。専念の〇〇です。記録の・・・
② 議題の確認	今日の議題は～です。
③ 提案理由の説明	提案者の〇〇先生・児童館などから提案をしてもらいます。 ・今日の議題の提案理由 今日の議題について質問はありませんか？ 提案者は質問に答えてください。 提案者の発言 今の回答でいいですか？
④ 討論の順序とあての確認	質問がないようなので、今日の学級会の流れについて確認します。今日の討論の柱は、～で、〇〇と〇〇を決めたいと思います。今日の話し合いのめあては、『 』です。次に先生からのお話です。先生お願いします。
⑤ 先生から	
⑥ 討論	では、討論に入りしたいと思います。 まず、①～②についてです。〇分間、個人で考えてください。始めてください。 (～〇分後～) 話し合いを止めてください。意見を発表してください。 意見発表 △△さんに対して、似た意見や付け足し意見はありませんか。 意見がこれ以上でないようなら～他にありませんか。 意見の継続が終わったら今出ている意見に賛同や、修正意見はありませんか？ △△さんは質問に答えてください。 質問への回答 今の回答でいいですか？ (必要に応じて) では今出ている意見から、〇〇にしようと思います。多数決をとります。手を挙げてほしい回数だけお願いします。 ★ 次の討論の柱がある場合には、次の部分を繰り返しながら話を進めていく
⑦ 決定事項の確認	今日決まったことを、記録者の( )さんから発表してもらいます。 記録者は、今日の話し合いでの決定事項を積み上げます。
⑧ 先生から	最後に先生からのお話です。お願いします。
⑨ 閉会	起立。気を付け。これで、第○回学級会を終わります。礼。

### 意見が出にくい時の「グループ『YOU I トーク』」

#### ① 『YOU I トーク』 ⇒ 個人発表

「意見が出にくいようなので、班で簡単に『YOU I トーク』をしてもらいたいと思います。時間は〇分間です。その後、各個人で発表してもらいます。では机を班にしてはじめてください。」「時間です。机を戻してください。」

#### ② 『YOU I トーク』 ⇒ 班別発表 ※個人発表が苦手な人の意見も聞ける

「意見が出にくいようなので、班で簡単に『YOU I トーク』をしてもらいたいと思います。時間は〇分間です。その後、各班の班長さんに代表して発表してもらいます。班長さんは、班で出た意見を整理しておいてください。では机を班にしてはじめてください。」「時間です。机はそのままでも構いません。」

「では、1班さんからどうぞ」

「1班さんで出た意見以外の意見が出た班の班長さんは挙手してください。」

「今、出た意見以外の意見がある班の班長さんは挙手してください。」

## 2 PM理論を生かした評価方法の構築

集団決定したことや集団での役割を果たすことにおいてやや個人差がみられるという問題が、昨年度の課題として挙げられた。このことは、話し合い事後の実践に対する生徒一人一人の評価活動が不十分なことが原因であったと考える。そこで本年度は学級活動をはじめとする集団活動の評価方法の構築を目指した。

評価の尺度を作るにあたっては、集団活動が「成功した」という教師の自負だけではなく、生徒一人一人が「心から楽しいと思ったか」「自分の糧となったと思ったか」というような自己の充実感や達成感といった「主観」を評価に組み込んでいく必要がある。そこで、本年度は、本研究の基盤でもあり、また、杉田洋氏らも特別活動におけるその視点の重要性を提唱するPM理論にもとづいた評価方法を取り入れることにした。

課題達成機能についての集団からみる視点（右表A）は、その集団活動によって得られる成果であり、目標への到達度である。また、集団維持機能について集団から見る視点（右表B）は、その集団活動によって得られる集団としての凝集性やまとまりである。このことを個々の生徒からも見るのが大切であり、これが一人一人個人の「主観」を評価する視点である。課題達成機能を個人から見る視点（右表C）では、その成果を上げるために一人一人の子どもが

	課題達成機能(P) 学習目標達成の視点	集団維持機能(M) 支持的風土形成の視点
集団(学級)	A 活動の成果・課題達成度	B 集団の凝集度・まとまり
個人(自分)	C 個人の活動への貢献度	D 個人の集団の中での安定感

合唱コンクール金賞を目指した学級での取組に関する評価（例）		
	課題達成機能(P) 学習目標達成の視点	集団維持機能(M) 支持的風土形成の視点
集団(学級)	A 合唱コンクールですばらしい合唱を披露することができたか（金賞をとることができたか）	B 合唱コンクールの一連の活動を通して、学級がまとまることができたか
個人(自分)	C 合唱コンクールに向けた一連の活動に、自分自身がどれだけ意欲的に取組み、貢献することができたか	D 合唱コンクールの一連の活動を通して、学級が自分自身にとって居心地のよい場所になったと感じられるか

「どれだけ貢献できたと感じているか」ということが問題となる。また、集団維持機能を個人から見る視点（右表D）では、その活動を通して「自分にとって集団がどれくらいやすい場になったと感じるか」が問題になる。これらの視点をもとに、「学級はどうであったか」「自分はどうかであったか」の両者の視点で、生徒一人一人が行った自己評価を分析していくことによって、学級での集団活動が望ましい人間関係を築き上げるものであったのかどうかを総合的に評価することができると考えている。

## 3 学級活動の実践

【第3学年 学級活動1-(ア) 体育大会でのフォークダンスの実施について、クラスの思いをまとめよう】

本時の目標	学習目標達成の視点	支持的風土形成の視点
	一人一人が学級集団の一員としての自覚を持ち、賛否双方の考えを出し合い、折り合いを付けながら、体育大会でのフォークダンスの実施についてよりよい結論に向けた話し合いを行う。	安心して発言できる雰囲気の中で、一人一人が互いの考えを認めつつ、自分の意見をしっかりと伝え、話し合いをしてよかったと感じることができる。

	学習活動・主な発問等	生徒の反応等	3つの視点から
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育大会実行委員会の立ち上げ【学活】</li> <li>○ 実行委員によるフォークダンス実施の提案とアンケート調査【帰りの会】</li> <li>○ アンケート調査の結果発表及び学級会開催の提案【帰りの会】</li> <li>○ 司会・提案・教師との事前打ち合わせ【放課後】</li> </ul>	<p><b>視点1</b></p> <p><b>賛成</b> 「最後の体育大会なので楽しみたい。」 「誰でも仲良くなれる機会だと思う。」 「思い出になると思う。」</p> <p><b>反対</b> 「男女で手をつなぐのは恥ずかしい。」 「昼休みはゆっくり体を休めたい。」 「練習する時間が。」</p>	
本時 【YOU TALK】	<p>開会・役割確認</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 議題について</li> <li>2 提案理由の発表</li> </ol> <p style="text-align: center;"><b>体育大会でのフォークダンスの実施について、クラスの思いをまとめよう。</b></p> <p>【実行委員より】フォークダンスの実施についてアンケートを実施したが、想像以上に反対意見が多かった。気持ちを十分に聞いていなかったと反省した。改めて「フォークダンスの是非（良し悪し）について3の1の一人一人の意見を聞き、話合いたい」できることなら「体育大会の昼休み時間にもレクレーションとして実施することを先生方をお願いしたい」と考え本議題を提案した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 討議の流れ説明・話し合いのめあて発表</li> <li>4 討議             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 意思表示 討議前の個人の意思を表示する。(ネームプレートの活用)</li> <li>(2) 賛成理由、反対理由を出し合う。</li> <li>(3) 質疑応答</li> <li>(4) 改善策等を出し合う【折り合い】</li> <li>(5) 合意形成【集団決定の尊重】</li> </ol> </li> <li>5 決定事項の確認</li> <li>6 自己決定 「私の決意表明」</li> </ol> <p style="text-align: center;"><b>【決定事項】視点2</b> <b>体育大会でのフォークダンスの実施を先生方に要望しよう。</b></p>	<p><b>視点3</b> 「自分の意見を発表してください。」 「質問や付け加えはありませんか。」</p> <p>「賛成、反対の人がお互い納得できるような改善案はありませんか」</p> <p><b>視点2【折り合い】</b> 「お互いの気持ちはよくわかりました。男女や学年を適当に混ぜて列を作るという方法はどうですか？」</p>	
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育大会に向けた個々の取組</li> <li>○ 体育大会実行委員会の充実</li> <li>○ 決定事項の修正</li> </ul>	<p><b>【生徒の感想】</b> 「素直な気持ちを伝えることができてよかった。」 「みんなで決めたことなので、決まったからには楽しみたい」</p>	

### 【生徒の変容〇と今後の展望☆】

○ 生徒の思い、問題意識から設定された議題であったので、生徒一人一人が自身のこととして思いを出し合うことができた。賛否はあったが、互いが妥協点を探り、折り合いをつけたことで、よりよい方向で結論がでた。このことで、当初の意見とは違う結論であってもそれを素直に受け入れ、尊重する生徒の姿が見られた。**視点1・2**

☆ 発言者がやや固定していたところもあったので、グループでの話し合いの場を適宜設定するなどして少数派の意見も全体の場にも上がってくるような話し合い活動の工夫をしていきたい。**視点2・3**

☆ 結果的にフォークダンスの実施が見送られ、『一の宮音頭』の実施へと変更になったことでPの視点での評価が集団、個人共に低くなったが、学級会を通してそれぞれの思いを素直に表現することができたことによって、Mの視点に関する評価はともに高くなった。このような話し合いを重ねることが、M機能を高めることにつながるということが分かった。今後も学級での話し合い活動を充実させていきたい。

フォークダンスの実施を先生方に要望し、体育大会を盛り上げる取組		
4段階評価	課題達成機能(P) 学習目標達成の視点 平均 2.8	集団維持機能(M) 支持的風土形成の視点 平均 3.5
集団(学級)	フォークダンスを実施し、体育大会を盛り上げることができたか	フォークダンス実施を目指すことで、学級がまとまることができたか
個人(自分)	平均 2.8 フォークダンスの実施に向けて、自分自身がどれだけ貢献できたか	平均 3.2 フォークダンス実施に向けた取組を通して、学級は居心地のよい場所となったか

### 研究内容③ 自主的な生徒会活動の充実

本校生徒の自主的・実践的態度の育成を目指し、一の宮中学校の伝統と先輩たちの取組を土台に、今年度は『Our School ～293人と共に創る一中ブランド～』の生徒会スローガンを掲げ、生徒一人一人がやりがいと責任をもって活動できる生徒会活動を目指して取り組んでいる。また、生徒自らが自分たちの学校を見つめながら課題を見付け、話し合い活動を通じて、よりよい学校づくりに向けての改善策を模索し、実践する取組を継続して行い、生徒一人一人の力と学校全体のレベルアップを目指している。

昨年度の生徒会執行部を中心に起草したプロジェクトである『あそはなうたプロジェクト』に今年度も継続して取り組んでいる。「あいさつ」「そうじ」「はな（環境）」「うた（表現）」の4つの取組は、「こんな学校にしたい」、「こんな学校の生徒の一員でありたい」といった理想の学校に近付けるために必要なことだと多くの生徒が考えている。生徒一人一人、そして学校全体としても、その実践と成果が目に見えやすいものであり、委員会活動を中心に、学年やクラスなど様々な単位で意欲的に取組を始めている。『あそはなうたプロジェクト』という自主的な取組に、一人一人の生徒が生徒会組織の一員としての自覚と責任感を持ち、共に協力し、信頼し支え合いながら臨むことで、「望ましい人間関係」を育むことができると期待している。

プロジェクト	あ	そ	はな	うた
	あいさつ げんき	そうじ かんべき	はな いっばい	うた ごえ びびく
いつでも・どこでも・だれとでも・だれにでも				



昨年度の『あそはなうたプロジェクト』を中心とした生徒会活動の研究実践を通しての、成果（○）と課題（●）は、以下のようにまとめられる。

- 『あそはなうたプロジェクト』という言葉が浸透したことで、「あいさつ」「そうじ」「花環境」「歌声」に力を入れた生徒会活動を充実させるという共通イメージを、教師と生徒が共に持つことができ、取組の充実を図ることができつつある。
- 生徒たちが、学校行事などに向けた、学校、学年、学級での取組を通して、他者とのかわりの中で充実感や達成感を味わいたいと強く願っていることがわかった。
- 徐々に自主的な生徒会活動になりつつあるが、さらに充実させるためには、生徒に考える時間ときちんと実践できる場を十分に与えなければならない。しかし、時間、場には限りがあるので、教師側の明確な意図と緻密な計画が不可欠である。

豊かな心を育む上で、道徳的実践の場である特別活動の場の果たすべき役割は非常に大きい。中でも、生徒たちが自らなりたい姿を決め、その姿に向かって自主的な活動を行う生徒会活動は、「心」と「行動」との一致をうながす絶好の場であると考えられる。しかし、昨年度の取組を通して、時間と場の確保、綿密な計画の必要性の問題が課題として浮かび上がった。綿密な計画のもと、時間と場を十分に確保しながら自主的な生徒会活動を充実させるためにはどうすればよいのであろうか。

生徒会活動の目標は、学習指導要領第5章の第の〔生徒会活動〕の1「目標」で次のように示されている。

生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治能力の育成が重視され、具体的な内容として、①生徒会の計画や運営、②異年齢集団による交流、③生徒の諸活動についての連絡調整、④学校行事への協力、⑤ボランティア活動などの社会参加の5つの活動の充実が謳われている。また、「中学生熟議」の考え方によると、子どもたちが家庭や地域社会の一員として、さらには広く社会の成員として、よりよい集団生活や人間関係を築くために「話し合い」を重ねながら「協同して取り組む一連の自主的、実践的な活動」が生徒会活動であるといえる。

そこで、本年度は、この練り合う生徒会活動を必然的に生み出すような自治化プログラムを構築することによって、より綿密な計画のもと、時間と場を十分に確保しながら自治的な生徒会活動をさらに充実させることができるのではないかと考える。

以上のことから、学校でのよりよい集団生活や人間関係を築くために、全校生徒で議論をしながら取組を決め、実践していく場を生徒会活動における『YOU I トーク』の場としてとらえ、**練り合う**をキーワードに、以下の研究実践に取り組むことにした。

『生徒会活動自治化プログラム』の構築

1 『生徒会活動自治化プログラム』の構築  
～練り合う活動を必然的に生み出す1か月の活動サイクル～

子どもたちの自発性、自治性を育むためには、活動の流れ（サイクル）を明確に示す必要があると考える。「いつ話し合うことができるのか（話し合いの場）」、「どこで全校生徒にお知らせできるのか（発表の場）」という小さなゴールを明確に設定しておくことで、そのゴールに向かうための子どもたちの自主的で創造的な活動がスタートすると考える。



## ○ 専門委員会

本校は生徒会組織の中に11の専門委員会をもっている。4月に行われた新入生歓迎行事の際に、各専門委員会（委員長・副委員長）からの活動方針（マニフェスト）や活動計画等のお知らせ、委員の募集を行った。それを受けて、生徒は各学級に戻り、それぞれが希望する専門委員会を決める話し合いにつなげた。また、専門委員会の活動には、委員長・副委員長に「**常時活動～一中がスムーズに動くために不可欠な当番活動～**」と「**自治活動～一中をより楽しく、活気ある学校にするための活動～**」を明確に分け、年間計画を作成する指導を行った。



一の宮中学校生徒会・専門委員会年間活動計画		一の宮中学校生徒会・専門委員会年間活動計画	
平成25年度	代議委員会	平成25年度	広報委員会
<p>&lt;委員会のマニフェスト&gt; <b>「これだけは絶対実現させます！」という約束</b></p> <p>① クラスの代表として学級目標を達成させるため、クラスを盛り上げ、盛り上げます。</p> <p>② 一中生一人ひとりと時間をとって話し合いをし、話し合いを大切にします。</p>		<p>&lt;委員会のマニフェスト&gt; <b>「これだけは絶対実現させます！」という約束</b></p> <p>掲示コンクールを年に1回必ず実施したいと考えています。</p> <p>掲示コンクールを実施することで学校の雰囲気やイメージが良くなると思います。</p>	
<p>&lt;自治活動&gt; <b>一中をより楽しく、活気ある学校にするための活動</b> ①</p> <p>行事ごとに学級の目標スローガンを決め、目標に向けて一つひとつのクラスを盛り上げます。</p> <p>話し合いの司会の仕事をマニフェストで話し合いを大切にすることを約束します。</p>		<p>&lt;自治活動&gt; <b>一中をより楽しく、活気ある学校にするための活動</b></p> <p>1ヶ月ごとに掲示物を行います。主に、体育大会やリンドウ祭などの行事に合わせて、各委員会がのびのびと活動できるように考えています。</p>	
<p>&lt;常時活動&gt; <b>一中がスムーズに動くために不可欠な当番活動</b> ②</p> <p>毎朝、2日前着席の体制を先方に提案の様子、態度を聞きます。</p> <p>1ヶ月に1回、あいさつ運動を実施し、7:45～正門に立って登校して一中生や地域の方々に元気なあいさつを伝えます。月の最初の日</p>		<p>&lt;常時活動&gt; <b>一中がスムーズに動くために不可欠な当番活動</b></p> <p>毎日、当番制で放送を行います。朝、昼、そらじの時間に放送し、一人一人の時間を守るために放送します。</p>	
月	自治活動内容(活動・企画名)	活動の説明	活動の説明
4	常時活動 司会	各クラス学級目標を達成させるため、話し合いを大切にすることを約束します。	新入生に対する放送 新入生と先生を紹介するものな掲示
5	体育大会(5/24)に向けて	各クラスごとにスローガンを決め、クラスごとに目標を達成させる。当日、3:30～5:00に活動します。	体育大会にむけての放送、掲示 団長さんへ応援メッセージを送る掲示板を作る
6	二日前着席の体制、授業態度の改善	クラスごとに話し合いを行い、話し合いを大切にすることを約束します。	中体連にむけての放送、掲示 各部のキャッチフレーズや応援メッセージを掲示板にする
7	あいさつ運動	1学期の活動振り返り、学級目標達成状況を確認する	アンケートとする 1学期の放送について、放送アンケートとする
8			掲示コンクールを実施する

## ○ 生徒議会

生徒会執行部（生徒会役員及び専門委員長）と各学級の代議委員によって、生徒議会を行っている。生徒会活動を引っ張る生徒のリーダー（生徒会執行部）と各学級の意見を吸い上げてきた学級のリーダー（代議委員）が話し合いを行う場である。また、話し合う内容によっては、生徒会執行部だけでの生徒議会を行うこともある。生徒集会の役割分担や発表内容の確認を行っている。



## ○ 生徒集会

学級から吸い上げられ、生徒議会で練り上げられ、決定したものを全校生徒に発表する場が生徒集会である。各月の重点委員会活動や行事のスローガンの発表など、全校生徒に活動や取組の「スタート」を意識させる場になるようにしている。



## 2 生徒会活動の実践【生徒会活動の方向性について議論し議決する生徒総会の取組】

これまでに述べてきた『生徒会活動自治化プログラム』のサイクルをもとに、今年度6月に行った生徒総会の実践を以下にまとめることにする。

	時間	活動内容
事前の活動	20分	<b>【事前1】生徒会役員会 8名</b> ・生徒総会の議題決定に向けた話し合いを行う。 ・本校の実態（良さ・改善すべき点）を探るため、全校アンケートの作成を行う。
	15分	
	20分	<b>【事前2】全校アンケート実施</b> 全校生徒261名対象 <b>【事前3】生徒議会：生徒会執行部・学級代表 約27名</b> ・全校アンケート結果の報告を行い、一の宮中の良さや課題を整理し、「良さを伸ばすこと」、「課題を改善すること」の2つの視点から、「よりよい一の宮中（一中ブランド）を創り上げるためにどんな取組・活動ができるか」を学級討議へとおろす。
	50分	<b>【事前4】学級会 9クラス</b> ・生徒会役員が全校アンケート結果の報告を行い、学級での話し合いを行う。
	60分	<b>【事前5】生徒議会：生徒会執行部・学級代表 約27名</b> ・各学級からの取組・活動案の報告を行う。 ・生徒議会での提案（取組・活動案）を決定する。
	50分	<b>【事前6】学級会 9クラス</b> ・各学級で、生徒会からの提案についての賛否・意見・改善案・代替え案を話し合う。
話し合い	5分	<b>生徒会役員からの提案及び提案理由の説明</b> ・よりよい一の宮中（一中ブランド）を創り上げるために、①「一人一鉢花を育てる活動」と②「たてわり班での活動」を学校生徒で取り組んでいきたいことを提案する。
	35分 (15分)	<b>【議題1「一人一鉢花を育てる活動」についての話し合い】</b> <b>全体討論</b> ・各学級でまとめた意見（提案①「一人一鉢花を育てる活動」のメリット、デメリット）を出し合う。
	(20分)	<b>集団での合意形成</b> ・「よりよい一の宮中（一中ブランド）を創り上げるため」という目的を確認しながら、修正案を提案したり、不足しているところを補ったり、フォローし合ったりする。 ・多数決は一人一票で行い、一人一人の決定に責任を持たせる。
	40分 (15分)	<b>【議題2「たてわり班での活動」についての話し合い】</b> <b>全体討論</b> ・各学級でまとめた意見（提案②「たてわり班での活動」のメリット、デメリット）を出し合う。
	(25分)	<b>集団での合意形成</b> ・「よりよい一の宮中（一中ブランド）を創り上げるため」という目的を確認しながら、修正案を提案したり、不足しているところを補ったり、フォローし合ったりする。 ・多数決は一人一票で行い、一人一人の決定に責任を持たせる。
	3分	<b>決定事項の確認</b>
実践・事後の活動	30分	<b>【事後1】生徒会役員会 8名</b> ・生徒総会の反省と決定事項の確認を行う。 ・今後の活動の実行の方向性を確認する。
	40分	<b>【事後2】生徒議会：生徒会執行部 19名</b> ・「一人一鉢花を育てる活動」、「たてわり班での活動」を役割分担し、よりよい生活づくりのために協同して実行する。

No.	項目	よくできている	たいていできている
1	地域の方々、先生方、友達にさわやかなあいさつができていますか。	4	3
2	安全タスキをきちんと着用して、登下校できていますか。	4	3
3	交通マナーを守って登下校できていますか。	4	3
4	8:10 着席完了に間に合っていますか。	4	3
5	朝読書に取り組んでいますか。	4	3
6	一中ノートは朝きちんと提出できていますか。	4	3
7	授業2分前着席はできていますか。	4	3
8	授業前の黙想はできていますか。(姿勢を正す、目を閉じる)	4	3
9	授業前後のあいさつはしっかりできていますか。(姿勢、5秒礼、声)	4	3
10	制服は正しく着ていますか。(下着の色、ボタン、リボンなど)	4	3
11	髪型はきまりを守っていますか。(髪型、長さ、ゴムの色など)	4	3
12	靴は大切にはいていますか。(かかと踏み、汚れ)	4	3
13	給食当番として、準備はきちんとしていますか。	4	3



## 研究内容④ 『YOU I トーク』で響き合う校内環境づくり

「環境は人を育てる」というように、学校教育において、日々の生活する学校や学級の環境が生徒に与える影響は大きい。昨年度は、「日常的に道徳的価値に触れる環境づくり」を合言葉に、本校で育てたい3つの心（「自己実現を楽しむ心」「自他を大切にすること」「ふるさとを愛する心」）の観点から、日常的に道徳的価値に触れられるような環境づくりを行ってきた。その成果（○）と課題（●）は、以下のようにまとめられる。

- 『あそはなうたプロジェクト』の「無言清掃」「花環境整備」に加え、ボランティア活動や校内のペンキ塗りなどをしたことによって校内がきれいになった。
- 環境が人の心に及ぼす影響が大きいこと、教室や学校の環境が生徒の心を映す鏡であることを教師、生徒ともに十分理解し、わずかな変化にも気付き、互いに声を掛け合える雰囲気づくり（環境を介しての『YOU I トーク』）が必要である。また、生徒が自分たちで環境づくりをしていけるよう、各学級の係活動や生徒会活動を充実させる必要がある。

校内環境はおおむね整備されてきたが、あくまで整ってきたという段階である。日常的に生徒の心に響くような環境づくりにまでは至っていない。そこで本年度は、生徒の内面に働きかけ、そこから生徒同士の交流を生み出す環境づくり、生徒同士の会話が必然的に生まれる環境づくりを目指したいと考えた。

以上のことから、校内環境をきっかけに生徒同士の会話が生まれる場を『YOU I トーク』の場ととらえ、**響き合う**をキーワードに、以下の研究実践に取り組んでいる。

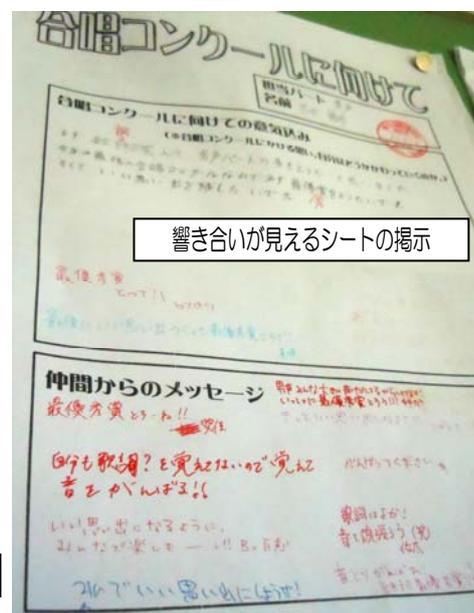
- 1 学級の仲間と響き合う教室環境づくり
- 2 学年の仲間と響き合う学年環境づくり
- 3 学校全体で響き合う校内環境づくり

### 1 学級の仲間と響き合う教室環境づくり

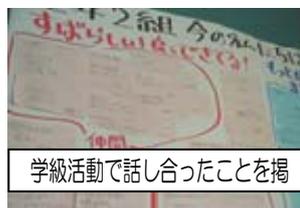
生徒が学校生活のほとんどを過ごす各学級の教室内環境は非常に重要である。そこで、生徒同士の『YOU I トーク』が必然的に生まれる教室環境づくりを行った。各学級の最終的な目的地でもある「学級目標」を大きく掲げ、そこに向かう軌跡を掲示物で表現するようにした。生徒達が自ら自分たちの教室環境を創り上げていくことで、必然的に『YOU I トーク』が弾み、よりよい人間関係づくりにつながると考えた。また、行事ごとの振り返りや道徳のワークシート等には、班や自然発生グループでの『YOU I トーク』を通してコメントなどを記入し合い、生徒同士の響き合いが視覚的に見えるようにした。このような教室掲示の工夫をしてきたことで、掲示物を介して『YOU I トーク』が弾む、学級の仲間と響き合う教室環境を整えることができてきた。



全学級掲示の「学級スローガン」



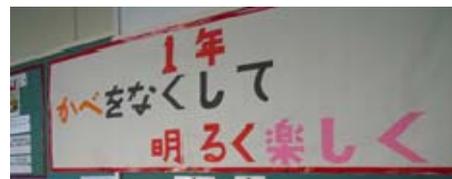
学級壁新聞



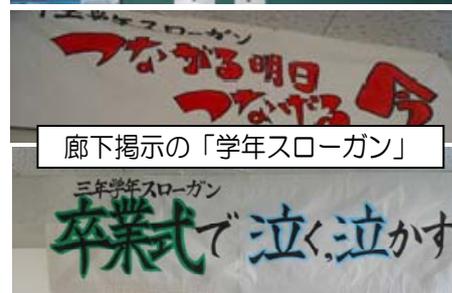
学級活動で話し合ったことを掲

## 2 学年の仲間と響き合う学年環境づくり

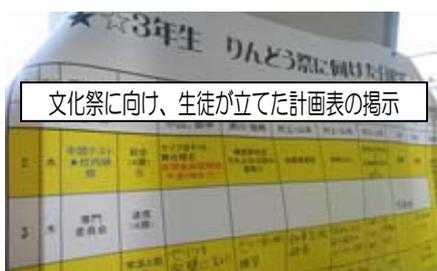
本校では、学年単位での集団づくりにも力を入れている。学年全体の雰囲気、生徒の人間関係に大きな影響を及ぼす。そこで、学年全体のよりよい雰囲気をつくり出す各学年の環境づくりに取組んだ。各学年の廊下には、クラスの代表である代議員が中心となって掲げた学年スローガンが大きく掲示してある。また、行事ごとの写真や教科ごとの掲示等によって、互いのがんばりを認め合ったり、教科の学習内容を振り返ったりといった『YOU I トーク』が生まれるようにした。さらには、特別支援学級在籍の仲間と『YOU I トーク』で響き合うために、階段踊り場の掲示板を利用して活動の様子等を随時掲示している。このように、それぞれの学年において、教室掲示と同様に、生徒同士の『YOU I トーク』による響き合いが必然的に生まれる環境づくりを行っている。



廊下掲示の「学年スローガン」



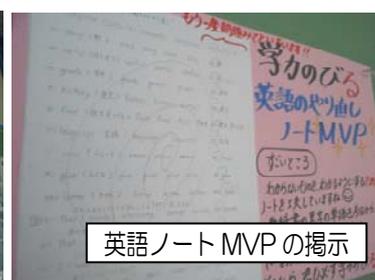
特別支援学級在籍生徒の活動の様子



文化祭に向け、生徒が立てた計画表の掲示



職場体験の様子を掲示



英語ノート MVP の掲示

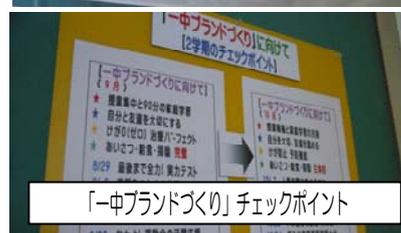
## 3 学校全体で響き合う校内環境づくり

校内で最も人通りの多い渡り廊下の掲示板には、生徒会スローガン旗が掲げられている。また、このスローガンに向かう「一中ブランドづくり」チェックポイントを各学年の廊下に掲示し、全校生徒が同じ方向を向いて響き合うようにした。さらには、広報委員会を中心に、季節や行事ごとに学校の様子を伝える掲示などを行っている。中体連前には各部活動キャプテンの意気込みを放送して、生徒たちの『YOU I トーク』を生み出すきっかけにしたり、部活動ごとのインタビュー記事を掲示したり、学校全体で響き合うための取組を行ってきた。10月には、「一中ブランドづくり」の一つである「自学1日90分」の取組について、実際の生徒の自学ノートを掲示することで、他の生徒の学習の意欲付け、また仲間同士の『YOU I トーク』のきっかけづくりとした。

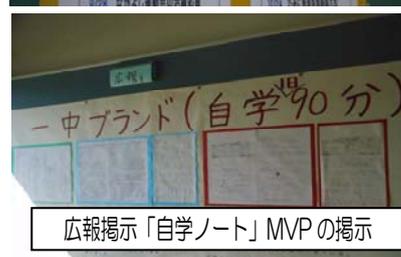
さらに本年度は、生徒総会で『一人一鉢運動』に取り組むことが決まった。日常的に花を育てるという環境が生徒の心情面をより豊かなものにするだろうと考える。また、自分の鉢を育てあげることに責任を持ちつつ、仲間の鉢にも気を配ることで、『YOU I トーク』が必然的に生まれるものとする。



H25 生徒会スローガン旗



「一中ブランドづくり」チェックポイント



広報掲示「自学ノート」MVPの掲示

### Ⅲ 研究のまとめ～仮説の検証(研究の成果(○)と今後の展望(☆))～

本校では、昨年度より、生徒の道徳性の高まりを、数値で見取る手段として、生徒が自身の道徳性を自己評価する『あそはなうたアンケート』(下表)を実施している。このアンケートは、「道徳の時間」「特別活動」「各教科」の3つの観点と「育てたい3つの心」とをからめ、それぞれを、主に「大切だと思うか」を問う「道徳的実践力」と、主に「行動につながられているか」を問う「道徳的実践」の2つの視点から問いを設定している。本研究実践が、生徒の豊かな心を育む上で有効な手段であるならば、道徳的実践力、道徳的実践共に伸びが見られ、さらには、「思っている」と「できている」ことがつながっていく、つまり「心」と「行動」が一致していくと考えている。

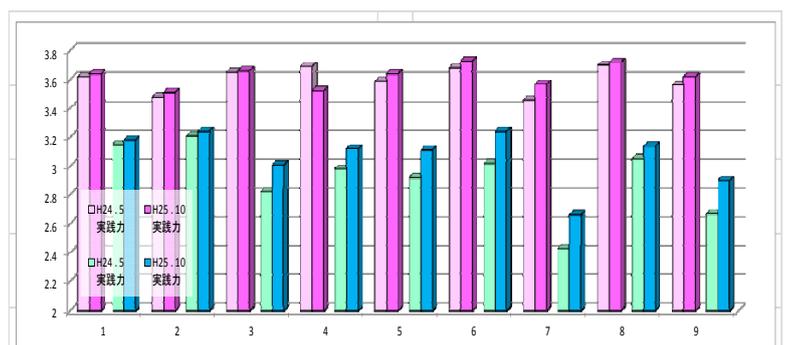
この『あそはなうたアンケート』を、「豊かな心」の育成状況を測る手段として採用する。また、全国学力・学習状況調査の結果を「確かな学力」の向上を測るデータとして、仮説の検証をする。

			心		自己評価	行動		自己評価					
			道徳的実践力	道徳的実践									
命を大切に する心	(3)	10 道徳	目標を持って努力する人間になりたいと思う。	4	3	2	1	10 目標に向かって努力することが好きで、努力している。	4	3	2	1	
		11 特別活動	共にながまれる仲間(友達)が必要だと思う。	4	3	2	1	11 共にながまれる仲間(友達)がいる。	4	3	2	1	
		12 各教科	各教科において、苦手なものでわかるまであきらめずに努力することは大切だと思う。	4	3	2	1	12 各教科において、苦手なものでわかるまであきらめずに努力している。	4	3	2	1	
		13 道徳	自分にはよいところがある。	4	3	2	1	13 自分のよいところを發揮している。	4	3	2	1	
		14 特別活動	友達のよいところを見習うことは大切だと思う。	4	3	2	1	14 友達のよいところを見習って自分を高めている。	4	3	2	1	
		15 各教科	好きな教科や内容がある。	4	3	2	1	15 好きな教科や内容について、自分で学習して力を高めている。	4	3	2	1	
	(4)	16 道徳	人の役に立つ人間になりたい。	4	3	2	1	16 誰かの役に立てるような生き方をしている。	4	3	2	1	
		17 特別活動	学校や学級などにおいて、その一員としての役割や責任をしっかりと果たすことは大切だと思う。	4	3	2	1	17 学級や学校のための行動(係・委員会など)を積極的にしている。	4	3	2	1	
		18 各教科	各教科の授業でも互いに協力したり、教え合ったりして学習することが大切だと思う。	4	3	2	1	18 各教科の授業でも互いに協力したり、教え合ったりして学習することができている。	4	3	2	1	
		19 道徳	人の気持ちがわかる人間になりたいと思う。	4	3	2	1	19 人の気持ちを考えたり、認め合ったりする言動ができている。	4	3	2	1	
		20 特別活動	学級や身の回りで、悩みを抱えていたり、いやな思いをしていたりする仲間がいたら解決したい。	4	3	2	1	20 学級や身の回りで、悩みを抱えていたり、いやな思いをしていたりする仲間がいたら、声をかけたり学級に呼びかけたりするなど、何か行動に移すことができている。	4	3	2	1	
		21 各教科	授業中、他者の話を最後まできちんと聞くことは大切だと思う。	4	3	2	1	21 授業中、他者の話を最後まできちんと聞くことができている。	4	3	2	1	
	自他を	(6)	19 道徳	人の気持ちがわかる人間になりたいと思う。	4	3	2	1	19 人の気持ちを考えたり、認め合ったりする言動ができている。	4	3	2	1
			20 特別活動	学級や身の回りで、悩みを抱えていたり、いやな思いをしていたりする仲間がいたら解決したい。	4	3	2	1	20 学級や身の回りで、悩みを抱えていたり、いやな思いをしていたりする仲間がいたら、声をかけたり学級に呼びかけたりするなど、何か行動に移すことができている。	4	3	2	1
			21 各教科	授業中、他者の話を最後まできちんと聞くことは大切だと思う。	4	3	2	1	21 授業中、他者の話を最後まできちんと聞くことができている。	4	3	2	1

#### 1 仮説①について 研究内容①

各教科やの授業や道徳の時間の中で、効果的な『学び合い』『語り合い』の場を設定し、実践を重ねれば、学習目標の達成と同時に支持的風土が形成され、生徒に「確かな学力」と「よりよい人間関係」を育むことができるであろう。

- 道徳的実践に関して、全ての項目で伸びが見られた。特に、「7」に関しては、まだ評価は低いものの伸び率が大きい。また、「5」「6」に関しても昨年度に比べて自己評価が高くなっている。



道徳的実践力(心)	道徳的実践(行動)
各教科の学習は大切だと思う。	1 各教科の学習をがんばっている。
各教科の学習は自分の人生に役立つと思う。	2 各教科の学習は自分の人生に役立っている。
各教科において、苦手なものでわかるまであきらめずに努力することは大切だと思う。	3 各教科において、苦手なものでわかるまであきらめずに努力している。
好きな教科や内容がある。	4 好きな教科や内容について、自分で学習して力を高めている。
各教科の授業でも互いに協力したり、教え合ったりして学習することが大切だと思う。	5 各教科の授業でも互いに協力したり、教え合ったりして学習することができている。
授業中、他者の話を最後まできちんと聞くことは大切だと思う。	6 授業中、他者の話を最後まできちんと聞くことができている。
授業中、自分の意見や考えを発表することは、自分や仲間にとって大切だと思う。	7 授業中、自分の意見や考えを発表することができている。
授業中、他者の真剣な発言や不得手な部分をばかにして笑うことは許されないとと思う。	8 授業中、他者の真剣な発言や不得手な部分をばかにして笑うことはない。
しっかりと反応をし、集中して授業に臨むことは、学級や一の宮中にとって大切なことだと思う。	9 しっかりと反応をし、集中して授業に臨み、学級や学校の雰囲気をよくしている。

これらの項目は、まさしく授業中の『YOU I トーク』の場面での行動を問うものである。これは、生徒達自身が、授業中に語り、学び合っていると実感しているということを示している。

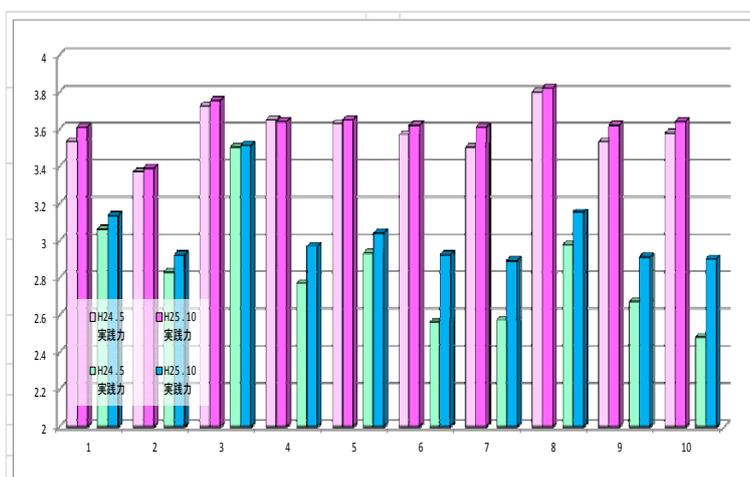
- ☆ 昨年度の反省を踏まえ、『YOU I トーク』の系統化に臨んだ。『YOU I トーク』の場を設定する際の拠りどころとなる生徒の具体的な姿を、授業者がイメージできるようになった。今後は、実践を重ねながら、教科の特性や生徒の発達段階に沿うよう、改訂を重ねていきたい。
- ☆ 『YOU I トーク』は目標達成の手段である。やみくもに取り入れるのではなく、各教科の学習目標を達成するために効果的に取り入れることをより意識した取組を進めていく。
- ※ 「確かな学力」の向上の視点は、全体仮説の検証として後述する。

## 2 仮説②について 研究内容②

学級活動において、意図的・計画的な話し合い活動を充実させれば、支持的風土のある望ましい人間関係を形成すると同時に、生徒に自主的・実践的な態度や「よりよい人間関係」を育むことができるであろう。

- 道徳的实践力、道徳的实践共に、全ての項目で伸びが見られた。生徒の多くが自主的、実践的な行動をとることができるようになったと実感していることがわかる。
- 昨年度、思っても行動に移せていないという生徒が多かった「6」「7」の道徳的实践の伸びが大きい。話し合い活動の充実が、集団の支持的風土を醸成し、互いに声を掛け合ったり、意見や考えを出し合ったりしやすい雰囲気をつくっていると考えられる。
- 「3」に関して、道徳的实践力、道徳的实践の差が小さい。「共にがんばれる仲間がいる」という状況こそ、支持的風土のある望ましい人間関係ができつつあることを示していると考ええる。

☆ 研究成果が生徒自身の実感として表れてきているが、人間関係は不安定であるということを教師側は常に認識していなければならない。生徒の問題意識からスタートする話し合い活動を、今後も意図的、計画的、継続的に実施し、より確かな人間関係を形成していきたい。



## 3 仮説③について 研究内容③

自治的な生徒会活動を充実させれば、集団の一員として互いに練り合い、自己の役割や責任を果たす中で、支持的風土のある望ましい人間関係を形成すると同時に、生徒に自主的・実践的な態度や「よりよい人間関係」を育むことができるであろう。

道徳的实践力(心)	道徳的实践(行動)
みんなで話合って協力することは大切だと思う。(学校行事・学級活動など)	1 話合って決まったことを、協力してできている。(学校行事・学級活動など)
命を大切にしようと思っているクラスである。	2 命を大切にしようとしているクラスである。
共にがんばれる仲間(友達)が必要だと思う。	3 共にがんばれる仲間(友達)がいる。
友達のおいところを見習うことは大切だと思う。	4 友達のおいところを見習って自分を高めている。
学校や学級などにおいて、その一員としての役割や責任をしっかりと果たすことは大切だと思う。	5 学校や学級のための行動(係・委員会など)を積極的にしている。
学級や身の回り、悩みを抱えていたり、いやな思いをしていたりする仲間がいたら解決したい。	6 学級や身の回り、悩みを抱えていたり、いやな思いをしていたりする仲間がいたら、声をかけたり学級に呼びかけたりするなど、何か行動に移すことができる。
互いの意見や考えを出し合い、よりよい学級や学校を創り上げたいと思う。	7 自分の意見や考えを出し合って、よりよい学級や学校を創り上げることができる。
いじめや差別のない学級、学校にしたいと思う。	8 いじめや差別のない学級、学校にするために、その一員としての正しい行動をとっている。
生徒会活動や学校行事が盛り上がり、一の宮中はもっとよい学校になると思う。	9 生徒会活動や学校行事を盛り上げるために、自分にできることをしている。
阿蘇、一の宮のために、学校、学級のみんなでできることをすることは大切だと思う。	10 阿蘇、一の宮のために、学校、学級のみんなと一緒にできることをしている。

- 「7」「9」「10」に関しての伸びが見られた。生徒会活動が、自治的に運営されつつあると生徒達自身が実感していることがわかる。
- ☆ 学校行事や生徒会執行部が主導する活動においては、多くの生徒たちが、自主的、実践的な取組ができていると実感している。一方で、「5」にあるように、学級の係活動や委員会活動といった個々の活動に関しては、まだ取組が十分ではない。今後も「一人一役」を原則に、各学級での話し合い活動と連動しながら、「生徒の」「生徒による」「生徒のための」自治的な生徒会活動を充実させていきたい。

#### 4 仮説④について 研究内容④

生徒の生活の基盤である校内の環境を、日常的に道徳的価値に触れ、互いの心が響き合うものにすれば、生徒の「よりよい人間関係」を育むことができるであろう。

- 校舎回りに花が増えてきたことで、朝の登校時や帰りの下校時に花のそばを通る生徒が花を見て「きれいだね」「この花何だろう？」という会話をする光景が見られるようになった。また、ボランティア委員会の生徒を中心に花の手入れを行い、自分たちで学校の花を育てていくという意識を高めることができた。また、学級内の掲示物にお互いのコメントを書き合うことで、休み時間や放課後にそれらを見てさらに会話が広がるなど、必然的に『YOU I トーク』が生まれるようになった。
- ☆ 環境づくりに関しては、やや教師主導での活動が多い状況である。今後は、校内の「花カレンダー」（仮称）等を作成し、生徒主体で年間の見通しをもって校内外の花整備に努められるような取組にまでつなげたい。また、学級花壇の利用等をもっと計画的に進めていきたい。掲示物に関しても、学級での係活動や各専門委員会での活動と関連させて、生徒が主体的に環境づくりを行えるようにする。そうすることで、さらに必然的に『YOU I トーク』が生まれ、互いの心が響き合うものになると考える。

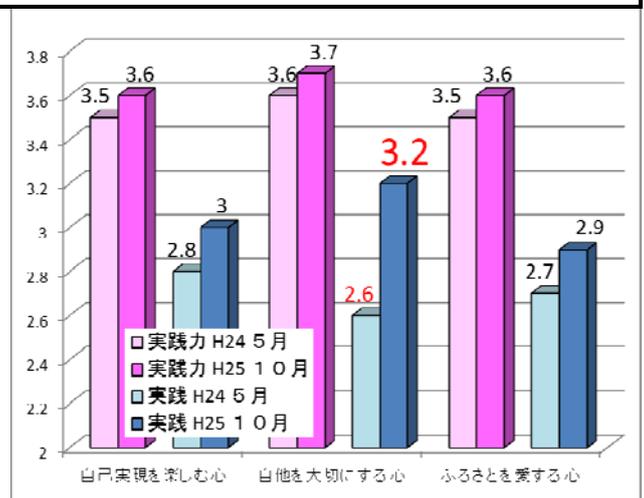
#### 5 全体仮説について

全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として『YOU I トーク』を位置付け、『一中プラン』に基づいた実践を重ねれば、支持的風土の中で必然的に生徒同士が学び合う集団となり、「確かな学力」と「よりよい人間関係」を共に育むことができるであろう。

#### 【あそなうたアンケートの結果から「よりよい人間関係」形成の視点】

- 昨年度5月と本年度10月のアンケート結果を見てみると、全ての項目において、伸びが見られた。特に、「自他を大切にすること」に関しては、道徳的実践（行動）に関する自己評価が非常に高まった。特に、「授業中に他者とコミュニケーションをとること」「学校行事などで他者と協力すること」「仲間意識を持った行動をとること」「公平公正な態度をとること」を問う設問において伸びがみられた。他者とのかかわりが増えたことを実感し、また自ら他者に積極的に関わることができるようになってきたと自己評価している生徒

平成24年5月と平成25年10月実施結果「育てたい3つの心」別集計  
※4段階評価：数値が4に近い方が評価が高い



が増えてきたことを示している。全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として『YOU I トーク』を位置付け、その充実を図ってきた成果が、確実に表れてきていると考えられる。

- 全ての項目において、道徳的実践力（心）と道徳的実践（行動）との差が縮まった。心と行動が完全に一致するのはなかなか難しいが、「思っていること」「わかっていること」を素直に行動化することができる生徒が増えた、もしくは、行動化しやすい集団（準拠集団）となってきたといえる。

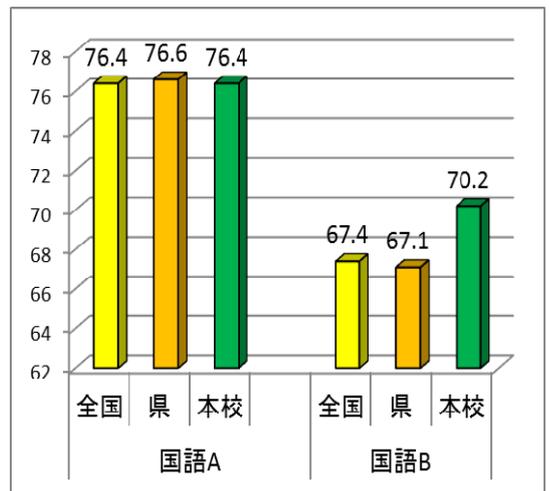
☆ 生徒は、他者とのかかわりを求め、その中で充実感や達成感を味わいたいと強く願っていることが分かった。今後もこの取組を継続し、伝統化させたい。全ての教育活動でさらに『YOU I トーク』を充実させるとともに、道徳的実践の場である特別活動を活発にすることで、必然的に道徳的価値の自覚を促し、自分、仲間、ふるさとを愛す心を身に付けさせていく。

### 【全国学力・学習状況調査の結果から「確かな学力」育成の視点】

本研究を開始した当初、第1学年であった現3学年の生徒の

「全国学力・学習状況調査」【国語科】結果 ※数値は平均正答率

学力の実態を「全国学力・学習状況調査」の国語科の結果から検証した。国語科は、各教科等における言語活動の基盤を育てる役割を担っているからである。国語の学習において「思考力、判断力、表現力」の確かな力を身に付けさせることができれば、必然的に他教科へと波及していくと考えられる。

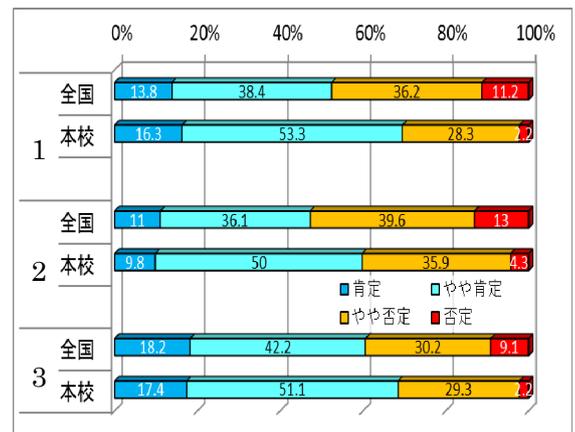


- 「国語A」問題に関しては、全国及び県と同等の平均正答率であった。それに対して、特徴的なのが「国語B」問題である。全国平均、県平均の正答率を3%ほど上回った。主として思考力、判断力、表現力が問われる「活用」の問題においてこの成果が得られたことは大きい。また、質問紙調査からも、生徒が他者とのかかわりを意識した学習をしていることが分かった。『YOU I トーク』によって学び合う際、他者とのかかわりの中で思考、判断、表現することが必然である。この結果から、『YOU I トーク』を道徳性を育む言語活動と位置付け、『一中プラン』に基づいた実践を重ねてきたことが、支持的風土の中で生徒同士が学び合う集団を形成し、確かな学力の育成につながったと考える。

「全国学力・学習状況調査」【質問紙調査】結果 ※一部

1	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか
2	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか
3	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか

☆ 他教科においても「活用」に関する領域に伸びが見られ始めた。このことから、基礎基本の確実な定着を図りつつ、この取組を継続させ、「よりよい人間関係」の中で「確かな学力」を育んでいきたい。



## おわりに

本校は、平成23・24年度の2カ年にわたり、熊本県教育委員会「生きる力を育む研究指定校（心の教育研究推進校）」の指定を受け、道徳教育を中心とした研究を進めて参りました。この研究を通して、多くの成果を得ることができ、生徒の豊かな心の醸成及び確かな学力の向上に繋がりました。

そして、本年度、これらの研究成果並びに課題を再度整理し、一の宮中学校ならではの実践に発展させたいという職員集団の思いが芽生えました。そこで、研究テーマを、「自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を身に付けた生徒の育成」～確かな学力とよりよい人間関係を育む『YOUI トーク』の実践を通して～ に設定し、語り、学び合う学級集団づくりを目指した実践を進めることにしました。

ある道徳の授業参観の際、生徒同士の『YOUI トーク』が始まりました。価値項目に照らし合わせて自分の経験を振り返り、グループ間で各自の考えを出し合い、その考えに対する返しを行う場面がありました。その中で、「〇〇君は、部活動でもリーダーとして頑張っているじゃない。」という返しの言葉がありました。返しを受けた生徒は、笑みを浮かべ照れながらも嬉しそうにしていました。互いの気持ちに寄り添い励まし合う仲間、そんな仲間があれば、難しい学習にも主体的に取り組むことができると思います。教室で学ぶということは、仲間がいるということ、それは、それぞれ違った個性や能力を持った仲間を一つの集団として高めていくことだと思います。一中は、今、そんな学びの雰囲気のある学校に向かっています。

特に、確かな学力とよりよい人間関係を育む実践は、二律背反ではなく車の両輪のごとく相乗効果を生むものであり、よりよい学習集団のなかでこそ豊かな学力が醸成されるものだということを再確認することができました。これらのことは崇高なテーマであるものの、指導者として越えなければならない一つのハードルだと思います。今後、全職員共通理解のもと、さらに研究を深めていきたいと思っております。授業で勝負、授業を通じた人間形成を追究することは、笑みに満ちた生徒や保護者の姿を育み、自らの進路を開拓する「生きる力」の育成につながる大切な学びだと強く思います。

最後になりましたが、本校の研究推進にあたりまして、御指導及び御助言を賜りました、阿蘇市教育委員会をはじめとする関係者の方々に対しまして心から感謝申しあげます。

平成25年10月31日

阿蘇市立一の宮中学校 教頭 中村 賀一

## 【参考文献】

- 『中学校学習指導要領解説道徳編』 文部科学省 平成20年9月
- 『中学校学習指導要領解説特別活動編』 文部科学省 平成20年9月
- 『平成23年度道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）資料』  
独立行政法人教員研修センター 文部科学省 平成23年6月
- 『中学校 心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』 文部科学省 平成14年
- 『「中学生熟議」のすすめ』 文部科学省 平成23年 12月
- 『「新しい時代を拓く心を育てるために」一次世代を育てる心を失う危機ー』  
中央教育審議会「幼児期からの心の教育の在り方について」答申 平成10年6月
- 『道徳教育推進教師の役割と実際』  
永田繁雄・島恒生編 教育出版 平成22年8月
- 『新しいリーダーシップ 集団指導の行動科学』 三隅二不二  
ダイヤモンド社 昭和41年
- 『中学校「道徳シート」とエンカウンターで進める道徳』  
諸富祥彦・齊藤優・植草伸之 編著 明治図書 平成19年2月
- 『自立と共生の心を育てる小集団学習』  
高旗正人・熊本県個集研編著 黎明書房 平成14年2月
- 『自立と共生の授業づくり・学級づくり』  
相原次男監修 熊本県個集研著 黎明書房 平成19年3月
- 『心を育て、つなぐ特別活動』 杉田洋編著 文溪堂 平成21年8月
- 『よりよい人間関係を築く特別活動』 杉田洋著 図書文化社 平成21年12月
- 『「学び合い」スタートブック』 西川純編 学陽書房 平成22年9月
- 『学び合う教室』 西川純著 東洋館出版社 平成12年3月
- 『学び合いの仕組みと不思議』 西川純著 東洋館出版社 平成14年3月
- 『クラス会議で学級は変わる！』  
諸富祥彦監修 森重裕二著 明治図書 平成22年1月
- 『各教科・領域における道徳教育の進め方の実際』  
小島宏編 教育出版 平成22年8月

## 【研究同人】

### 平成25年度

岩切 昭宏	中村 賀一	竹下 佳子	石田 陽子	藤原 道則	坂本 昌彦
中川真理子	佐渡 哲	小島 正明	淵川 修二	吉田 忠利	安田 浩
中村昇二郎	成瀬 純子	田中 知博	荒木 鉄成	林 葵	岩崎 佳奈
西岡 朋美	小山 裕子	村上 徳洋	松村妃里子	上村 萌子	後藤 健介
吉田みどり	土田 正宣	上田 郁子	堂福美巴子	山本 聡子	筑紫 貴子
高田 博子	和田つよ子	山口 千鶴	村上 寛隆	ゴンザカ	

# 一の宮中学校『話し合い活動』マニュアル



H25年度版

# 1 『話し合い活動』とは

私たちが住む日本、そして世界の多くの国が「自分たちのために、自分たちのことは、自分たちで話し合って決めて、決まったことはみんなで守って、幸せに生きていきましょう」という考え方で動いています。これが『民主主義』とよばれる考え方です。

みなさんはこれから大人になり、社会の一員として職場や地域などで活動する場面が必ずやってきます。そのとき、「何かを決めたり」「問題を解決する方法を考えたり」「目標に対して、どれだけできているのかを確認したり」など、さまざまな場面で話し合いが行われます。話し合いで決定したことは、必ずみんなで守り、実行しなければなりません。だからこそ、きちんと話し合いに参加しなければならないのです。このことは、学校でも同じです。学級や部活動でも、自分たちのことを、自分たちのために、自分たちで話し合い、決めて、みんなでやっていく」ことが大切です。

『話し合い活動』は、話し合いの方法を学びながら、話し合う力を身に付ける場です。さらに一の宮中で取組んでいく『話し合い活動』は、話し合いをすることでよりよい仲間（集団）づくりができること、自分自身も心地よいことを実感する場でもあります。みんなでたくさん話し合って学校生活を充実させ、学級、学年、一の宮中を盛り上げていきましょう。

# 2 『話し合い活動』の種類

「話し合い」は大きく次の4つに分けられます。

- ① **決める話し合い**  
※ 学級目標決め、生徒会スローガン決め、係決め、レクリエーション決め など
- ② **解決する話し合い**  
※ 学級で起こった諸問題の解決、学校の課題の解決、係（委員会）活動の改善など
- ③ **創る（生み出す）話し合い**  
※ ルールづくり、ルールの見直し、新しい係づくり など
- ④ **確認する話し合い**  
※ 各係（委員会）などからの連絡、報告 相談 など

これらの「話し合い」を「いつ」「どの場で」「だれと」するのかによって、さまざまな『話し合い活動』が設定されていきます。話し合う内容によって、どの場でだれと話し合うことが適当なのか判断する力も必要になってきますね。

	どのような場	メンバー
学級	学級会	クラス全員
	企画(計画)委員会	企画(計画)委員
	朝の会・帰りの会	クラス全員
	係活動の時間	係員
生徒会	生徒総会	全校生徒
	生徒議会	生徒会執行部 各委員長 クラス代議員
	生徒会推進委員会	生徒会執行部 各委員長
	委員会活動	各委員
その他	部活動	部員
	キャプテン会議	各部キャプテン



### 3 『話し合い活動』の基本的な流れ ～例えば『学級会』ではこのようになります～

<b>事前</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>① 議題アンケート等の実施</b></p> <p>議題アンケート、議題箱に入っている提案カード等の内容をもとに、教師の助言を得て代議員、企画(計画)委員等が議題を決定する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>② 議題に関する実態調査</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>③ 司会者、提案者との打ち合わせ</b></p> <p><input type="checkbox"/> 議題に関する学級等の実態をとらえ、『提案理由』と『話し合いのめあて』を決める。  <input type="checkbox"/> 『討議の柱』と進行『シナリオ』を作成する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; float: right;"> <p>なぜ話し合うのか？          何のために話し合うのか？          ☆目的等を明確に持つため</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; float: right;"> <p>☆ 明確な役割分担によるスムーズな進行のため          ☆ 効果的に話し合いを進めるため討議内容のブレを防ぐ          ☆ 司会者育成のため</p> </div>
<b>学級会の流れ</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>開会・役割確認</b> 「今から学級会を始めます。司会の〇〇です・・・。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>① 議題の発表</b> 「今日の議題は〇〇〇〇です。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>② 提案理由の発表</b> 「提案理由を〇〇さんお願いします。」「みなさん・・・」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>③ 討議の流れの説明</b> 「討議の流れを説明します。今日は2つの柱で・・・」  <b>話し合いのめあて発表</b> 「話し合いのめあては〇〇〇〇です。みなさん・・・」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>④ 議題</b> 「では、一つ目の柱について話し合います。・・・」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>⑤ 決定事項の確認</b> 「決定事項を確認します。決定したことは必ずみんなで・・・」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>⑥ 自己決定</b> 「決定したことについて、自分がどのように取り組むかまとめましょう」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>閉会</b> 「これで、学級会を終わります。先生のお話です。お願いします。」</p> </div>
<b>事後</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>① 活動状況の確認(適宜)</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>② 反省と評価(朝の会、学級の時間、帰りの会)</b></p> </div>

さらに細かく見ていきましょう。

## (1) 議題の選定

議題箱などに入っている提案カードの中から、代議員や企画（計画）委員が、先生と一緒に議題の選定を行います。このとき、提案の内容によって、どのように対処するのか話し合い、以下のように分類します。

- 話し合い活動をするもの
- 朝の会や帰りの会で、連絡・相談するもの
- 日直や係、委員会などの担当者をお願いするもの
- さんをお願いするもの
- 先生に相談、お願いするもの

分類したら、提案者にどのように対処するかお返ししましょう。

提案カード	
名前( )	
提案したいこと	
提案理由	
----- 切り取り線 -----	
提案してくれた( )さんへ	
提案ありがとうございました。 あなたの提案は、	
<input type="checkbox"/>	話し合いをします。
<input type="checkbox"/>	みんなへ連絡・相談します。
<input type="checkbox"/>	当番・係にお願いします。
<input type="checkbox"/>	さんをお願いします。
<input type="checkbox"/>	先生をお願いします。
	( )より

**注**子どもたちだけの話し合いでは決められないものもあります。

- 人権に関する問題
- 教育課程（時間割など）に影響する問題
- 他のクラスや学年などに影響する問題
- 金銭が関わる問題
- 校内の決まりに関する問題
- 施設や設備の利用に関する問題
- 健康や安全に関する問題



## (2) 議題と提案理由、めあて、討議の柱決め

話し合いをすると決まった提案は、なんのためにその話し合いをするのか、「目的」をはっきりさせましょう。例えば、学級目標「みんな仲良く」のためであったり、先輩に感謝の気持ちを表すためであったり。目的をはっきりさせることによって、議題が「レクレーション大会をしよう」から「もっとクラスの絆を深めるためにレクレーション大会をしよう」と変わりますよね。目的を見失うと、話し合いの内容がヘンな方向に流れてしまいます。

目的が決まったら、提案理由、話し合いのめあて、討議の柱を決めましょう。

## (3) 事前連絡

話し合いの計画が出来上がったなら、みんなに連絡しましょう。連絡黒板があれば、「日時・議題・提案理由・めあて・討議の柱・司会者・書記」などをあらかじめ書いて知らせておきましょう。話し合いシートを事前に配り、自分の意見を書いてもらいましょう。

## (4) 話し合い作戦会議

みんなの考えが集まったら、事前に話し合いの流れについて作戦会議をします。討議の柱に関して、「だれがどのような意見を持っているのか」「どのような意見を持っている人が多いのか」「少数意見は?」「反対意見は?」など、事前に把握することによって話し合いをスムーズに進めることができます。

また、討議の柱に対して、企画(計画)委員などの意見を事前に話し合い、持っておくことも必要です。状況によっては、企画(計画)委員が原案を作成し、その原案を練り上げるところから話し合いをスタートさせてもよいでしょう。

この作戦会議をしっかりとしておくことが、『話し合い活動』成功の秘けつです。

議題	体育大会でのフォークダンスの実施について、3年1組の思いをまとめよう。
----	-------------------------------------

提案理由 議案	私たちは、「一の音中をもっとつながりの深い、温かい学校にしたい」という思いからフォークダンスの実施を希望していました。しかし、今年はその実施が見送られ、とても残念です。私たちは、3年生のほとんどが、同じ思いだと思い、それを確かめるためにクラスのみんなにアンケートを実施しました。その結果に私たちは大変驚きました。(このグラフを見てください。※理由が説明)このグラフからもわかるように、思った以上に反対の気持ちを持っている仲間が多かったからです。私たちが想像していた結果と違いました。この結果は、少し悲しかったですが、同時に、自分たちだけ盛り上がり、思いを先走らせ、みんなの気持ちを十分に聞いていなかったということにも気づき反省しました。そこで、改めて「フォークダンスの是非(良い悪い)について3の1の一人一人の意見を聞き、話し合いたい」としてできることなら「体育大会の昼休み時間」でもレクレーションとして実施することを先生方にお願ひしたいと考え、今日の議題を提案しました。
------------	--

話し合いのめあて 委員会(司会者)	① 自分とは違う考えにも耳を傾けた上で、自分の気持ち、考えを正直に伝え合おう。 ② 話しやすい雰囲気を作りたい。
----------------------	---

討議の柱	① 「体育大会昼休みにフォークダンスを実施すること」を先生方に要望することについてどう思うか?
------	---

賛成	反対	変更案(提案)	予想される理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>「中学校最後の体育大会を楽しみたい」</li> <li>「思い出に残る」</li> <li>「仲良くする」</li> <li>「仲間のきずなが深まる」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どのくらい苦手な人は、男女の列を入れ替えては?」</li> <li>「保護者や1・2年生、遊びに来ている小学生、先生方など、3年生以外の人の参加を呼びかけては?」</li> <li>「昼休みを10分休ませて頂くことはできないか、同時に実施しては?」</li> <li>「練習時間は昼休みに3年生だけ1、2回協力してもらえばできると思う。」</li> <li>「フォークダンスではなく、『一の音中』を復活させては?」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どのくらい苦手な人は、男女の列を入れ替えては?」</li> <li>「保護者や1・2年生、遊びに来ている小学生、先生方など、3年生以外の人の参加を呼びかけては?」</li> <li>「昼休みを10分休ませて頂くことはできないか、同時に実施しては?」</li> <li>「練習時間は昼休みに3年生だけ1、2回協力してもらえばできると思う。」</li> <li>「フォークダンスではなく、『一の音中』を復活させては?」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「見る人は楽しいかもしれないが、するほうは恥ずかしい」</li> <li>「練習をする時間がない」</li> </ul>

予想される疑問	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どうしてそんなにフォークダンスにこだわるのですか?」</li> <li>「先生方の会議ではないのに決まったのに、できるのですか?」</li> </ul>
---------	--

予想される反応・進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>「反対意見の人がネームプレートをつけることを拒む。」</li> <li>「意見があまり出ない、出にくい。」</li> <li>「賛成意見も反対意見もその理由に原案が出ない。」</li> <li>「ある程度意見が出そろったら、歩み寄り(折り合い)に入る。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「司会者は、話し合いのめあてを繰り返す。」</li> <li>「ネームプレートを見て、司会者が各グループで話し合い、その場で出た。」</li> <li>「司会者から、皆さんに賛成してもらい、自分とは反対の意見に対して、※ 早くまで反対意見の人の気持ちを見失うようなときは、司会者からフォークダンスをしたことがある経験からの感想を聞く、いや、今でも恥ずかしいと思う人? (歩み寄り) ほとんどの人が恥ずかしいに手、司会者 恥ずかしいけれど、このことを踏まえて何か意見は?」</li> <li>「どれどれの思いは十分に分かって今の段階で、自分の意見に賛成/ 提案者としては、形はどう受けられるアイデア(改善案)が出ればと」</li> </ul>
------------	---	---

## (5) 学級会

さあ、話し合いをスタートしましょう!

話し合いの基本的な流れは、2ページに示した通りです。「話し合い作戦会議」で確認したことを頭に置きながら、司会者、司会補佐が進行をし、黒板記録と全体(ノート)記録は話し合いの流れがわかるように記録をしていきましょう。(各係の役割は次のページに)

『話し合い活動』を円滑に進めるためには、下の表のような個人の態度、集団の雰囲気、司会者が欠かせません。これを参考にしながら、話し合いのめあてを設定するとよいでしょう。

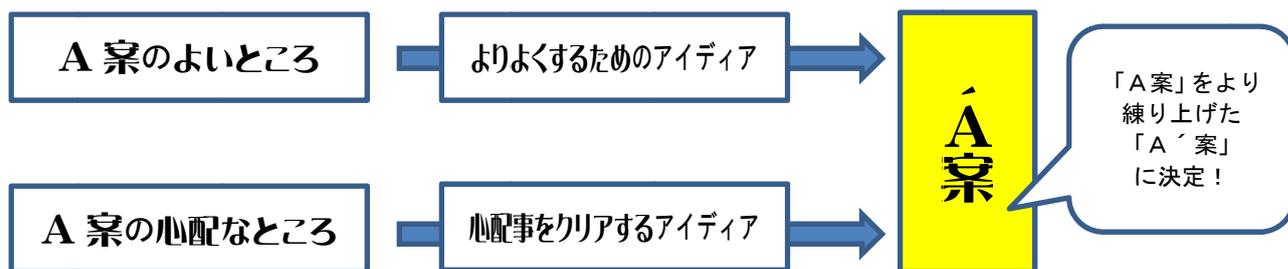
また、話し合いは、右の3つの場面に分けられます。意見を「集める」場面、意見を「まとめる」場面、意見を「求める」場面です。これらの場面では、下の表のようなことを考えて発言したり、相手に発言を求めたりしましょう。

個人の態度	ア 相手の言動について、相手の立場になり、相手の考えをくみとる。
	イ どんな考えも批判したり、笑ったりしない。
	ウ 相手の言動に、どこかよいところはないか進んで探す。
集団の雰囲気	エ 自分のなすべきことに責任をもって取り組む。
	ア 楽しい雰囲気であること。
	イ 色々な意見が受け入れられる雰囲気であること。
ウ 適度な緊張感のある雰囲気であること。	

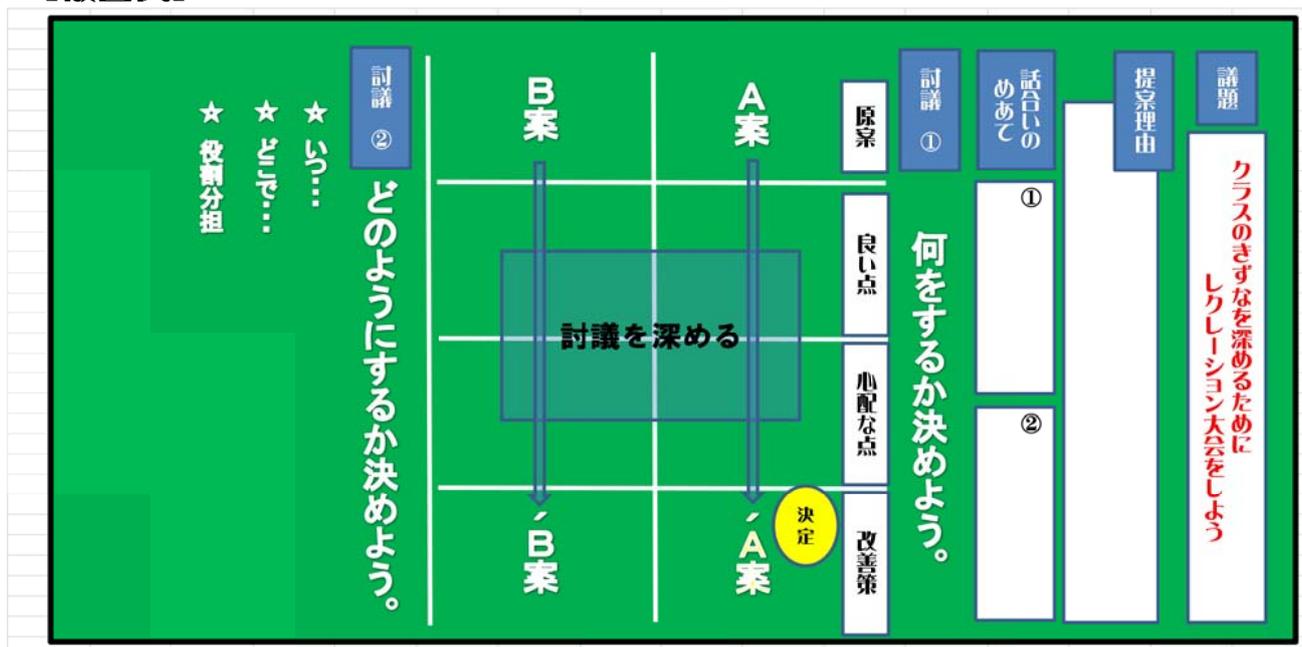
意見が言えてよかった!

意見を集める	思いついたことをたくさん出し合ひしましょう。
	どんな意見が出て、笑ったり、避難したりするのはやめましょう。
	同じ意見を何度も言うようなことがないようにしましょう。
	他者の意見をしっかりと聞いて、似た意見や違う意見を出し合ひしましょう。一方的ではなく、なるべくいろいろな視点での意見を出しましょう。
意見をまとめる	考えの違いを整理してまとめましょう。
	同じような意見はわかりやすくまとめましょう。
	意見をまとめて言うときは、「結論⇒理由」の順番で話し合ひましょう。
	他の考えに対して、賛成か反対か、しっかりと意見を持ちましょう。他の考えと自分の考えのつながりを考えてまとめましょう。
意見を求める	一番正しいと思う意見はどれか、聞いてみましょう。
	よくわかっていないことは、わかっている人に説明してもらいましょう。
	よくわかっていない人がいたら、どこまでわかっているか聞いてみましょう。よくわかったかどうか、その人の言葉で発言してもらいましょう。

## [深まる話し合い例]



## [板書例]



## [採決をするときに大切なこと]

民主主義の社会では、話し合いを通して何か一つのことを決定する場面がたくさんあります。それは、学級会でも同じですよ。『多数決』という方法が一般的でしょう。これまでみなさんが経験した学級会で、何度も『多数決』が行われてきたのではないのでしょうか。「多くの人が賛成したことを全員でやる」これは民主主義の理にかなっていません。しかし、集団や内容の質によっては、「賛成者が多ければ何をやってもよい」という「数の暴力」を引き起こしてしまうという危険性をはらんでいることを私たちは知っておく必要があります。このようなことから**安易な『多数決』**は、絶対にしてはいけません。

## **安易な『多数決』**とは

- 話し合う前と話し合った後の提案が同じであり、話し合いが深められていない状態で行われる『多数決』
- 『反対意見』についての議論がなされていない状態で行われる『多数決』
- 『少数意見』についての議論がなされていない状態で行われる『多数決』 のこと

です。上で紹介した**[深まる話し合い例]**のように、話し合いが深められ、**A**という提案が、よりよく改善された**A'**という案に変わっているのであれば、多数決をしたとしても安易な『多数決』にはなりません。

『多数決』などの採決をする際には、次のような手順を踏むべきでしょう。

- 1 採決をしてよいか全員で確認する。
- 2 「起立」「挙手」「投票」（記名・無記名）など採決方法を決める。
- 3 有効人数を確認し、可決の割合（過半数、2／3など）を決める。
- 4 司会者は、A案・B案・・・それぞれの相違点を明確にする。
- 5 もし、過半数に達しない場合は、上位〇つで再多数決をするか決める。
- 6 採決の結果を報告し、決定したことは必ずみんなで実践することを確認する。

## (6)自己決定(決まったことに対して自分は何をするのか)

話し合いに参加しただけで、あとは何もしないのであれば、それは決定に従ったことになりません。話し合いが終わったら、決定したことに対して自分自身はどういうことをやっていくのか「自己決定」をしましょう。

例えば、「みんなが仲良くなるためにレクレーション大会をしよう」という議題で話し合いをし、「ドッジボール大会をする」ことが決まったとします。この決定に対して、自分自身は「〇〇係の仕事を協力して行う」「がんばったチームに賞状をつくる」など個人レベルで、決定事項にどのようにかかわるかを決めます。これを「自己決定」といいます。

この「自己決定」をすることで、活動が終わったとき、自分自身のがんばりがどうであったのか、また今後どのようにがんばっていきたいかを振り返ることができます。やる気がさらに高まることでしょう。

## (7)実践の振り返り

実際に活動を行う際には、その活動を始める前に「目的」を全員で確認するようにしましょう。そして活動後はその目的を十分に果たすことができたか振り返ることが大切です。

## 4 『話し合い活動』における役割分担

話し合い活動をよりスムーズに運営し、意義のあるものにするためには、チームで動く必要があります。議題を選定したり、司会進行をしたり、提案をしたりと役割はさまざまです。これらの役割をみんなで分担し、進めていくことで、「自分たちの」「自分たちによる」「自分たちのための」話し合い活動となります。

係		役割など	備考
企画(計画)委員会		話し合い活動の企画・計画・運営全般	【学級】 代議員・企画係などが中心  【生徒会】生徒会執行部
		議題BOXなどの管理	
		議題の選定	
		司会グループの編成	
		議題に関する実態調査・調査結果の分析など	
		原案の作成	
		先生への報告・連絡・相談	
司会グループ	司会	議事進行全般 企画委員との打ち合わせ	議題に応じて互選  ※可能な限り固定化しない ※生徒会活動では、担当者
		司会補佐と交代で発表者の指名をする	
		意見や理由を整理してまとめながら進行する	
	司会補佐	司会の補佐	
		司会と交代で発表者の指名をする	
		司会と一緒に意見や理由を整理してまとめる	
黒板記録	議事内容を図表を活用して整理し、黒板に記録		
全体記録	議事内容の全体を記録し、議事の最後に決定事項を報告		
提案者		提案理由の説明	提案グループ等の代表者
		原案の作成に参加する	

## 5 有意義な『話し合い活動』にするために…

☆ 全員が納得する結論を出そう（折り合い）

☆ 話し合いで決まったことは全員で協力しよう（集団決定の尊重）

この2つが有意義な『話し合い活動』にするために絶対に必要なことです。

このような「話し合い」にするために、「話し合い」の参加者は次の7つのことを考えてください。

- 1 積極的に参加しましょう。
- 2 自分の意見を気兼ねなく発表できる雰囲気をつくりましょう。
- 3 自分勝手な意見や、感情的な意見は慎みましょう。
- 4 自分の考えをおしついたり、むやみやたらに反対したりはしません。
- 5 他の人の意見をしっかり聞きましょう。
- 6 反対の時は、どうすればよいと思うか『代案』を発表しましょう。
- 7 意見が分かれたときは、「折り合い点」を探しましょう

さあ、「話し合い」を始めましょう！  
すればするほど、私たちの『一中LIFE』  
は楽しいものになりますよ！

自分たちで決めたことはみんな  
で守っています。



自分たちのために何  
でも語り合い、きず  
なを深めていきまし  
ょう！

どんどんク  
ラスが居心  
地の良いと  
ころになっ  
ていくね。

# 提案カード

名前( )

提案したいこと

提案理由

----- 切り取り線 -----

提案してくれた( )さんへ

提案ありがとうございました。

あなたの提案は、

- 話し合いをします。
- みんなへ連絡・相談します。
- 当番・係にお願いします。
- さんをお願いします。
- 先生をお願いします。

より

# 第 四 回 学級会事前打ち合わせシート

日時：( )月( )日( )限

	話し合いの めあて		提案理由		議題

アンケート調査の結果など(クラスの実態)

議題	
----	--

提案理由	
提案者	

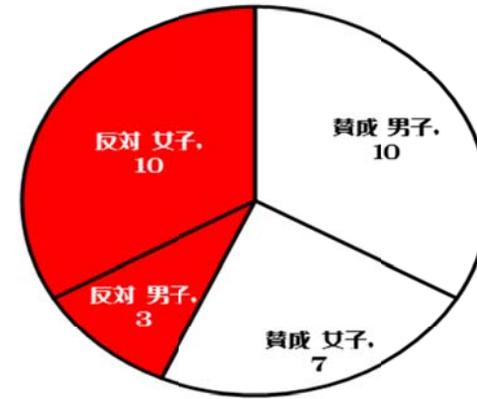
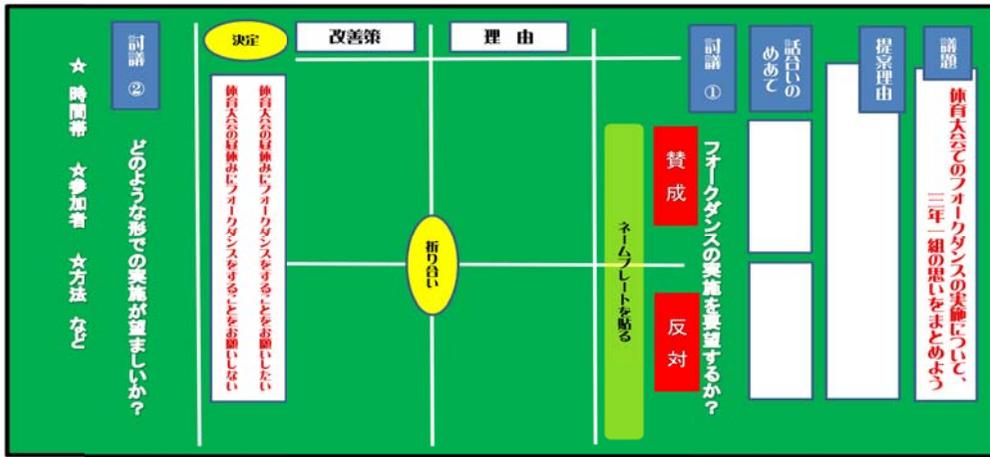
話し合いのめあて	①	
発表者(司会者)		
	②	

討議の柱	予想される発言	予想される改善策など	予想される結論

予想される質問	提案者の対応

予想される反応	司会者の対応

# 学級会事前打ち合わせシート記入例



議題 体育大会でのフォークダンスの実施について、3年1組の思いをまとめよう。

提案理由  
提案者  
私たちは、「一の宮中をもっとつながりの深い、温かい学校にしたい」という思いからフォークダンスの実施を希望していました。しかし、今年はその実施が見送られ、とても残念でした。私たちは、3年生のほとんどが、同じ思いだと思い、それを確かめるためにクラスのみならずにアンケートを実施しました。その結果に私たちは正直驚きました。(このグラフを見てください。※1つが説明)このグラフからもわかるように、思った以上に反対の気持ちを持っている仲間が多かったです。私たちが想像していた結果と違いました。この結果は、少し悲しかったですが、同時に、自分たちだけ盛り上がり、思いを先走らせ、みんなの気持ちを十分に聞いていなかったということにも気づき反省しました。そこで、改めて「フォークダンスの是非(良い悪い)」について3の1の一人一人の意見を聞き、話し合いたいと考えて、今日この議題を提案しました。

話し合いのめあて  
発表者(司会者)  
① 自分とは違う考えにも耳を傾けた上で、自分の気持ち、考えを正直に伝え合ひましょう。  
② 話しやすい雰囲気を自分たちでつくみましょう。

討議の柱 ① 『体育大会昼休みにフォークダンスを実施すること』を先生方に要望することについてどう思うか?

	予想される理由	改善策(提案)	予想される結論
賛成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中学校最後の体育大会を楽しみたい」</li> <li>「思い出に残る」</li> <li>「仲良くなる」</li> <li>「仲間のきずなが深まる」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうしても苦手な人は、男女の列を入れ替えては?</li> <li>保護者や1・2年生、遊びに来ている小学生、先生方など、3年生以外の人の参加を呼びかけては?</li> <li>昼休みを10分位伸ばして頂くことはできないか、同時に要望してみても?</li> <li>練習時間は昼休みに3年生だけ1、2回協力してもらえばできると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォークダンスではなく、『一の宮音頭』を復活させてみては?</li> </ul>
反対	<ul style="list-style-type: none"> <li>「見る人は楽しいかもしれないが、するほうは恥ずかしい」</li> <li>「練習をする時間がない」</li> <li>「昼休みにするのなら、休みなので反対」</li> </ul>		

討議の柱	②	賛成方向で討議①がまとまった場合	反対方向で討議①がまとまった場合
		どのような形での実施が望ましいか?	フォークダンス係にどんな仕事をがんばってもらいたいのか?
		<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 実施の時間帯は?</li> <li>★ 参加者は?</li> <li>★ 練習は?</li> <li>★ 気を付けることは?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ラジオ体操?</li> <li>★ 組体操?</li> </ul>

予想される質問

○ どうしてそんなにフォークダンスにこだわるのですか?

○ 先生方の会議でしないことに決まったのに、できるのですか?

○

予想される反応・進行

○ 反対意見の人がネームプレートを貼ることを拒む。

○ 意見があまり出ない、出にくい。

○ 賛成意見も反対意見もその理由に深まりが出ない。

○ ある程度意見が出そろったら、歩み寄り(折り合い)に入る。

○ 時間が来たら、これまでの流れを整理し、最後のまとめをする。

※ 話し合いの途中で時間が来てしまったら

○ 司会者は、話し合いのめあてを確認し、どんな意見でも誰も否定しないことを再確認し、安心して貼るように進める。

○ ネームプレートを見て、司会者が数名指名して意見を求めてみる。

○ グループで話し合い、その場で出た両方の意見を発表させる。1班から、代表者がまとめて。

司会者から、皆さんに質問してもいいですか?

○ 自分とは反対の意見に対して、質問などはありませぬか?  
※ あくまで反対意見の人の気持ちを知るために質問すること。  
これを見失うようなときは、司会者がめあて①②をおさえる。

○ フォークダンスをしたことがある人?(挙手させてみる)  
→ 経験からの感想を聞く - いやだった(一理由を聞く) いやだった - 今はやりたい(一理由を聞く)

○ 今でも恥ずかしいと思う人?(挙手させてみる)  
→ ほとんどの人が恥ずかしいに手を挙げるであろう。  
司会 恥ずかしいけどしたい、したくない、と分かれていることをおさえて、このことを踏まえて何か意見はありませぬか?

○ それぞれの思いは十分に伝わったと思いますが、クラスの意見を一つにまとめられたらと考えています。今の段階で、自分の意見に変化があった人は、ネームシートを移動しに来てください。

○ 提案者としては、形はどうであれ、実施したいという強い思いがあるようですが、それぞれ少しも歩み寄れるアイデア(改善策)が出ればと思います。賛成意見の人は反対意見の人も納得できるようなアイデア、反対意見の人は賛成意見の人が納得できるようなアイデアがあったら発表してください。

○ もう一度めあて①②を確認し、最終的な多数決を探る。

○ 残念ながら、時間が来てしまいました。残念ですが、今日はここで会を開きたいと思えます。続きは、朝の学級の時間などを使えばと思えます。みなさん、たくさん意見を出してくれてありがとうございます。

--	--



# 第 回 学級会 話し合いシート

日時：( )月( )日( )限

議 題			
提案理由			
話し合いのめあて			
役割分担	司会 ( )・黒板記録 ( )・全体記録 ( )		
討議の流れ	意見メモ	決定事項	
①開会 ②議題の確認 ③提案理由の説明 ④討議の順序とめあての確認 ⑤先生から			
⑥討議 討議の柱1 <hr/>			
討議の柱2 <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>			
⑦決定事項の確認 ⑧先生から ⑨閉会	備 考		

# ★学級会司会進行シート★

①開会・司会者自己紹介	起立。気を付け。今から第〇回学級会を始めます。礼。司会の〇〇です。記録の・・・
②議題の確認	今日の議題は～です。
③提案理由の説明	<p>提案者の〇〇(先生・活動班など)から提案してもらいます。</p> <p>・今日の議題の提案理由</p> <p>今の提案について質問はありませんか？</p> <p>提案者は質問に答えてください。</p> <p>提案者の回答</p> <p>今の回答でいいですか？</p>
④討議の順序とめあての確認 ⑤先生から	質問がないようなので、今日の学級会の流れについて確認します。今日の討議の柱は、～で、〇〇と〇〇を決めたいと思います。今日の話し合いのめあては、『 』です。次に先生からのお話です。先生お願いします。
⑥討議	<p>では、討議に入りたいと思います。</p> <p>まず、①～についてです。〇分間、個人で考えてください。始めてください。</p> <p>( ～ 〇 分 後 ～ )</p> <p>話し合いを止めてください。意見を発表してください。</p> <p>意見発表</p> <p>△△さんに対して、似た意見や付け足し意見はありませんか。</p> <p>(意見がこれ以上でないようなら…)他にありませんか。</p> <p>(意見の集約が終わったら)今出ている意見に質問や、修正意見はありませんか？</p> <p>△△さんは質問に答えてください。</p> <p>質問への回答</p> <p>今の回答でいいですか？</p> <p>(必要に応じて) では今出ている意見から、〇つにしほりたいと思います。多数決をとります。手を挙げてもいい回数は〇回までです。</p> <p>★ 次の討議の柱がある場合には、※の部分を経り返しながらか話を進めていく</p>
⑦決定事項の確認	<p>今日決まったことを、記録者の( )さんから発表してもらいます。</p> <p>記録者は、今日の話し合いでの決定事項を読み上げる。</p>
⑧先生から	最後に先生からのお話です。お願いします。
⑨閉会	起立。気を付け。これで、第〇回学級会を終わります。礼。